

(2017)

# MAU FACTBOOK

02	INTRODUCTION
	ABOUT MUSASHINO ART UNIVERSITY
04	HISTORY
06	ORGANIZATION CHART
08	STUDENTS
10	EXAMINATION RESULTS
12	ADMISSION FEE AND TUITION
14	SCHOLARSHIPS
16	CAREER SUPPORT
19	TEACHING CAREERS
20	INTERNATIONAL RELATIONS
23	RESEARCH AND COLLABORATION
27	STUDENT LIFE
29	MUSEUM & LIBRARY
30	FACILITIES
32	FACULTY AND STAFF
	ANNUAL REPORT
	FINANCIAL SUMMARY
47	ACCESS



# MUSASHINO ART UNIVERSITY FACTBOOK

## CONTENTS

02	はじめに	事業の概要
		36 2017(平成29)年度事業報告
	学校法人の概要	37 教育研究組織の改編等
04	沿革	教育力の強化
06	組織図	教育環境充実に向けた キャンパス整備
08	学生数	38 美術館・図書館機能の充実
10	入試結果	39 学生支援の充実・強化
12	学生納付金	研究支援・社会連携推進、 美術教育の普及、美術文化の振興
14	奨学金	40 広報・IR活動の強化
16	進路・就職	組織力の強化
19	教職関連	41 その他の主な取組
20	国際交流	財務の概要
23	研究・社会貢献	44 経年比較
27	学生生活	46 主な財務比率比較
29	美術館・図書館	47 交通アクセス
30	施設・組織	
32	教職員・役員	

## 学校法人武蔵野美術大学 2017年度ファクトブック

本冊子の対象期間は2017年4月1日～2018年3月31日です。一部、左記期間以外の事業についても掲載しています。

学校法人武蔵野美術大学 理事長  
天坊昭彦(てんぼう・あきひこ)



1939年生まれ。1964年東京大学経済学部経営学科卒業。同年出光興産株式会社入社。同社常務取締役、専務取締役を経て、2002年に同社代表取締役社長。石油連盟会長、同社代表取締役会長を歴任し、現在同社顧問。2010年より学校法人武蔵野美術大学理事、評議員を経て、2012年理事長に就任。

武蔵野美術大学 学長  
長澤忠徳(ながさわ・ただのり)



1953年生まれ。1978年武蔵野美術大学造形学部基礎デザイン学科卒業。1981年Royal College of Art, London修士課程修了、MA(RCA)取得。1999年武蔵野美術大学造形学部デザイン情報学科教授に就任し、2015年に学長、学校法人武蔵野美術大学理事に就任。有限会社長澤忠徳事務所代表取締役。2016年Royal College of Artより、日本人で初めてシニアフェローの称号を授与される。

武蔵野美術大学は、本学の前身である帝国美術学校が1929年に創立されて以来、「教養を有する美術家養成」を理念とし、「真に人間的自由に達するような美術教育」を掲げた建学の精神を堅持し続けながら、我が国を代表する私立の美術系総合大学として、これまでに6万8千人以上の卒業生を輩出してきました。単に芸術家を育てるのではなく、教養ある専門家としての人間力や伝達力を高め、表現力、語学力を兼ね備えた人材の育成を目指して、広く諸学問を学ぶ「文化総合科目」や学生が自身の専門と異なる領域を実習する「造形総合科目」など、特色のあるカリキュラムを実施し、国内外の様々な大学との学術交流や産官学共同プロジェクトを数多く展開するなど、建学の精神にふさわしい総合的、横断的な教育システムを築き上げて現在に至ります。

また、帝国美術学校時代から積極的かつ先進的に取り組んできた国際交流活動においては、2012年に文部科学省による「スーパーグローバル大学等事業——経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援——(旧グローバル人材育成推進事業)」で芸術系大学唯一の採択校となり、語学教育をはじめとする多彩な専門教育プログラムも展開しています。

少子高齢化に伴う社会構造の変化、高度情報化による業態の変容、さらに初等・中等教育における図画工作科・美術科の時間数削減の影響と、美術大学を取り巻く状況は厳しさを増していますが、2019年に創立90周年を控え、来たるべき100周年を迎えるための重要な改革期にある本学は、2014年に第1次中長期計画を策定し、「美術、デザインを専門とする大学として高い教育・研究力を発揮し、専門性と豊かな教養を備えた人材を育成するとともに、学術・文化を世界に発信する拠点としての地位を確立すること」を目標に、国内はもとより国際社会に貢献する大学として、教育環境のさらなる整備を推進しています。2018年1月に既報の通り、本学は2019年4月に向けて、造形構想学部及び大学院造形構想研究科の設置構想を進めており、併せて東京都新宿区に市ヶ谷キャンパスを開設し、従来の美術大学の枠を超えた新しい人材育成プログラムを展開する予定です。

既存の社会システムが行き詰まりを見せている現代にこそ必要なのが、美術大学で行われている教育であり、答えが用意されていない未知の諸困難に創造的解決をつくり上げていける柔らかな知性の開拓です。本学の教育・研究、国際交流、社会貢献等の取り組みや施策の現状を本冊子でご理解いただき、今後も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## ABOUT MUSASHINO ART UNIVERSITY

### 学校法人の概要

帝国美術学校開校

美術史家の金原省吾、名取堯が中心となり、帝国美術学校を開校。(開校校長:木下成太郎、校長:北吟吉)日本画科、西洋画科、工芸図案科が置かれ、気鋭の作家・デザイナー、各分野の専門の研究者が教職員に招かれた



帝国美術学校校舎(1930年頃)



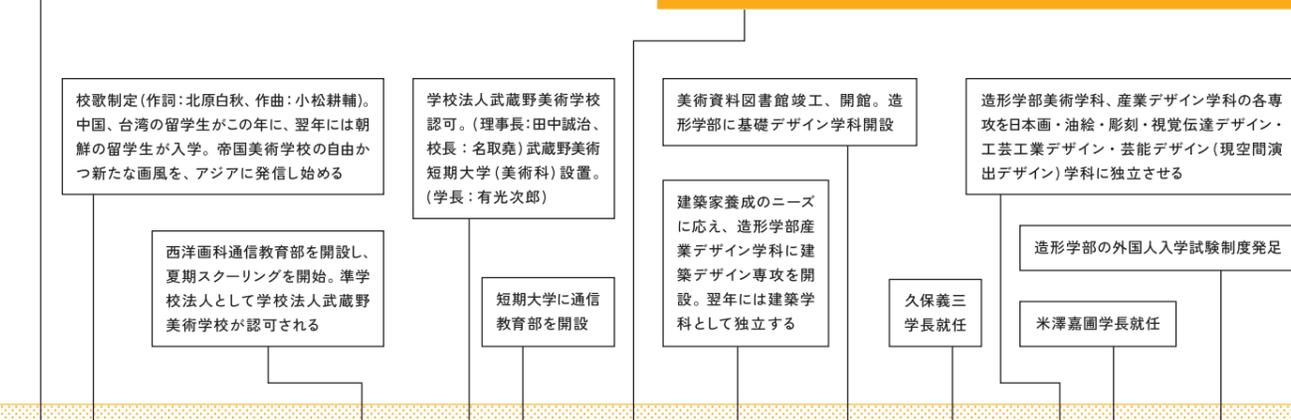
鷹の台キャンパス(1961年)



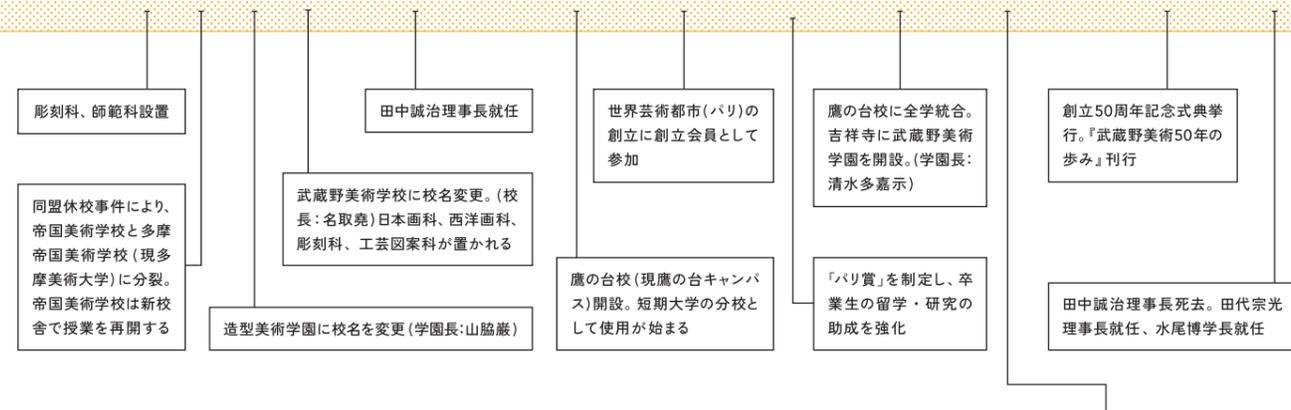
武蔵野美術大学開学式(1962年)

学校法人武蔵野美術学校を学校法人武蔵野美術大学と改称。武蔵野美術大学が設置され、国内で初めて「造形」という名の学部が開設される。造形学部には美術学科(日本画・油絵・彫刻専攻)、産業デザイン学科(商業デザイン・工芸工業デザイン・芸能デザイン専攻)が置かれ、別科実技専修科も開設。(学長:有光次郎)

武蔵野美術大学設置



1929 1930 1931 1935 1947 1948 1951 1956 1957 1959 1961 1962 1963 1964 1965 1967 1969 1971 1973 1974 1978 1979 1983 1986  
昭和4年 昭和5年 昭和6年 昭和10年 昭和22年 昭和23年 昭和24年 昭和26年 昭和31年 昭和32年 昭和34年 昭和36年 昭和37年 昭和38年 昭和39年 昭和40年 昭和42年 昭和44年 昭和46年 昭和48年 昭和49年 昭和53年 昭和54年 昭和58年 昭和61年



鷹の台校バリエード封鎖(1969年)



武蔵野美術学園の授業風景(1979年)

大学院開設

造形専攻科を廃止し、大学院造形研究科(修士課程)を開設。二つの専攻で構成され、美術専攻には日本画・油絵・彫刻コース、デザイン専攻には商業デザイン(現視覚伝達デザイン)・工芸工業デザイン・芸能デザイン(現空間演出デザイン)・建築・基礎デザイン(現基礎デザイン学)コースが置かれた

建学の精神・教育理念

武蔵野美術大学の教育理念は、1929(昭和4)年10月30日、本学の前身である帝国美術学校の創立に由来するものです。帝国美術学校の創立に寄与し、後にその経営と教育の中心となった金原省吾(開校時学監)の手記には「教養を有する美術家養成」と記されています。また、創立時の中心人物の一人、名取堯(開校時主事)の「武蔵野美術」(創立三〇周年記念特集)に寄せられた30年の回顧には、「人間が人間になる道は激しい鍛錬、たゆまざる精進の中において、

放任の中にはない、その框(わく)を固定させず、しかも、放任に任せず、真に人間の自由に達するような美術教育への願い」とであると語られており、美術を技術的専門性だけでなく、総合的な人間形成をもって成るものと考えたのです。このように、まさに人間の自由に達するために美術・デザインを追求することこそが、本学の教育理念であると言うことができ、国内美術大学では最大規模の造形教育の大学となった現在も、この教育理念を継承し堅持しています。



シンボルについて

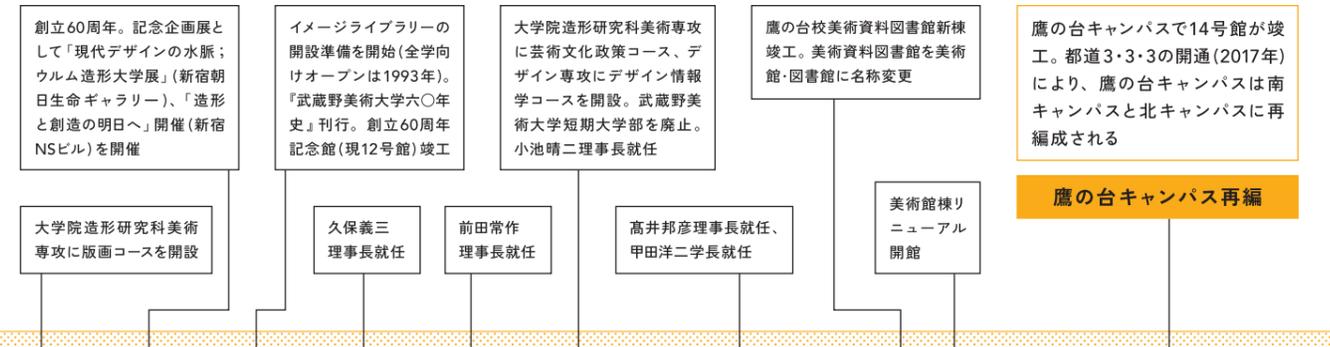
「美」の一文字をモチーフにした本学のシンボルマーク(美マーク)は、帝国美術学校時代に定められました。1996(平成8)年に勝井三雄本学名誉教授が考案した「MAU」ロゴとともに、「教養を有する美術家養成」「真に人間の自由に達するような美術教育」という建学の精神を、現在も変わることなく表しています。



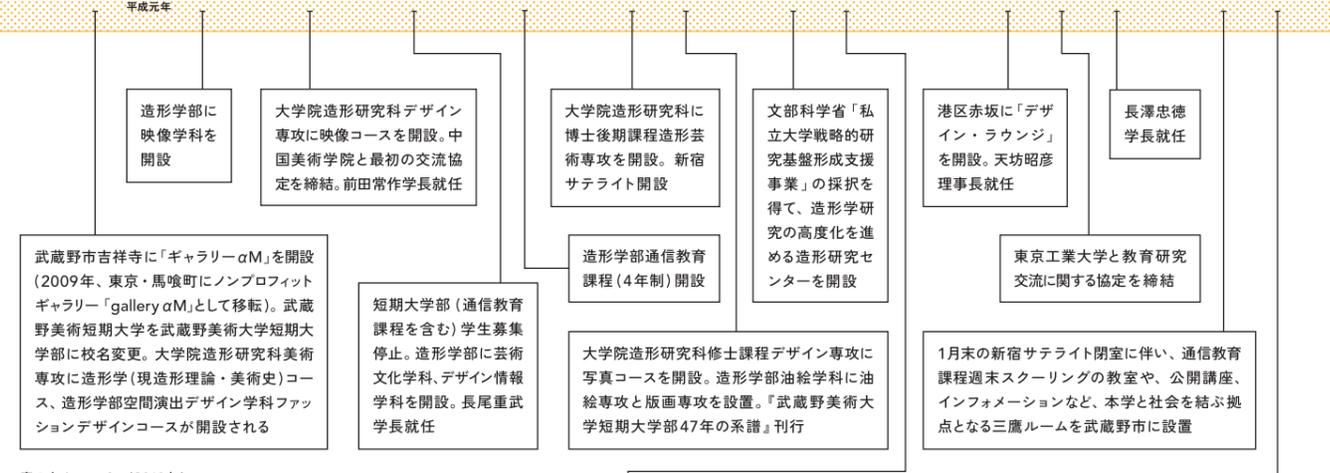
14号館のガラス工房(2016年)

鷹の台キャンパスで14号館が竣工。都道3・3・3の開通(2017年)により、鷹の台キャンパスは南キャンパスと北キャンパスに再編成される

鷹の台キャンパス再編



1987 1988 1989 1990 1991 1994 1995 1999 2000 2002 2003 2004 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2015 2016 2017 2019  
昭和62年 昭和63年 昭和64年 昭和66年 平成2年 平成3年 平成6年 平成7年 平成11年 平成12年 平成14年 平成15年 平成16年 平成18年 平成19年 平成20年 平成21年 平成22年 平成23年 平成24年 平成25年 平成27年 平成28年 平成29年 平成31年



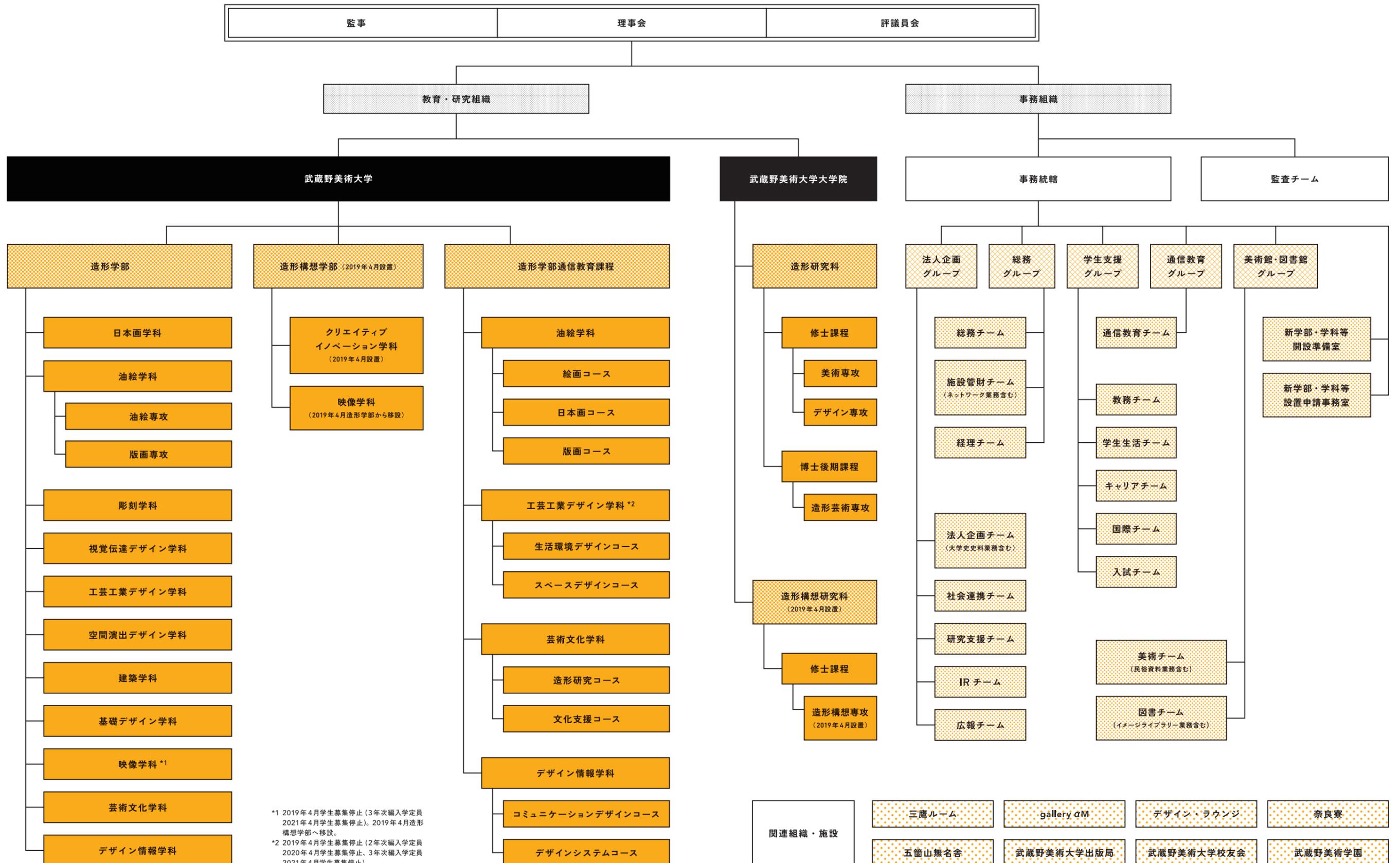
鷹の台キャンパス(2010年)

80周年記念事業

有楽町朝日ホールにおいて、創立80周年記念式典を挙げる。世界美術大学学長サミット「美術大学の時代的、社会的意義と使命:生きる、をつくる。つくる、を生きる。」や国際デザインシンポジウム「21世紀高度デザイン教育の展望—美術大学が拓く新たなデザイン教育—」など、多くの記念行事を催し、80周年記念誌「武蔵野美術大学のあゆみ1929-2009」も刊行された

創立90周年 新学部・大学院開設

造形構想学部を開設し、クリエイティブイノベーション学科を新設、造形学部より映像学科を移設。大学院造形構想研究科造形構想専攻(クリエイティブリーダーシップコース、映像・写真コース)を開設。東京都新宿区に市ヶ谷キャンパスを同時開設。造形学部通信教育課程工芸工業デザイン学科学生募集停止



\*1 2019年4月学生募集停止(3年次編入学定員2021年4月学生募集停止)。2019年4月造形構想学部へ移設。  
 \*2 2019年4月学生募集停止(2年次編入学定員2020年4月学生募集停止、3年次編入学定員2021年4月学生募集停止)。

関連組織・施設

三鷹ルーム	gallery αM	デザイン・ラウンジ	奈良寮
五箇山無名舎	武蔵野美術大学出版局	武蔵野美術大学校友会	武蔵野美術学園

## ◎ 武蔵野美術大学 (2017年5月1日現在)

## 大学院 造形研究科 修士課程

専攻	コース	収容定員	1年次	2年次	学生数	収容定員充足率
美術専攻	日本画コース		15	12	27	2.23
	油絵コース		20	30	50	
	版画コース		7	9	16	
	彫刻コース		8	11	19	
	造形理論・美術史コース		1	1	2	
	芸術文化政策コース		7	4	11	
	小計	56	58	67	125	
デザイン専攻	視覚伝達デザインコース		9	7	16	2.38
	工芸工業デザインコース		17	20	37	
	空間演出デザインコース		6	7	13	
	建築コース		9	12	21	
	基礎デザイン学コース		8	8	16	
	映像コース		10	5	15	
	写真コース		7	5	12	
	デザイン情報学コース		1	2	3	
	小計	56	67	66	133	
合計	112	125	133	258	2.30	

※2年次生には、修了延期者を含む。

## 大学院 造形研究科 博士後期課程

専攻	収容定員	1年次	2年次	3年次	学生数	収容定員充足率
造形芸術専攻	18	3	2	3	8	0.44

## 造形学部 通学課程

学科・専攻	収容定員	1年次	2年次	3年次	4年次	学生数	収容定員充足率	
日本画学科	160	46	40	45	39	170	1.06	
油絵学科	油絵専攻		133	127	125	127	512	1.06
	版画専攻		24	28	30	27		
	小計	584	157	155	155	154		
彫刻学科	132	38	35	36	37	146	1.11	
視覚伝達デザイン学科	422	110	108	109	114	441	1.05	
工芸工業デザイン学科	556	139	143	145	149	576	1.04	
空間演出デザイン学科	500	137	130	132	119	518	1.04	
建築学科	330	87	85	90	84	346	1.05	
基礎デザイン学科	302	78	81	82	82	323	1.07	
映像学科	350	91	89	95	101	376	1.07	
芸術文化学科	326	91	86	76	80	333	1.02	
デザイン情報学科	400	104	107	98	108	417	1.04	
合計	4,062	1,078	1,059	1,063	1,067	4,267	1.05	

※4年次生には、卒業延期者を含む。

## 造形学部 通信教育課程

学科・コース	収容定員	1年次	2年次	3年次	4年次	学生数	収容定員充足率	
油絵学科	絵画コース		55	287	80	195	617	1.07
	日本画コース		23	121	34	123		
	版画コース		8	36	14	77		
	小計	980	86	444	128	395		
工芸工業デザイン学科	生活環境デザインコース		21	92	25	58	196	0.44
	スペースデザインコース		19	62	12	37		
	小計	735	40	154	37	95		
芸術文化学科	造形研究コース		4	20	15	59	98	0.74
	文化支援コース		8	42	42	173		
	小計	490	12	62	57	232		
デザイン情報学科	コミュニケーションデザインコース		51	225	36	87	399	0.67
	デザインシステムコース		15	45	12	20		
	小計	735	66	270	48	107		
合計	2,940	204	930	270	829	2,233	0.76	

## ◎ 武蔵野美術学園 (2017年5月1日現在)

科・コース	収容定員	課程			学生数	
		基礎	専門	研究		
造形芸術科	絵画コース		22	16	49	87
	水彩・パステルコース		0	4	6	10
	彫刻コース		6	5	5	16
	日本画コース		6	10	10	26
	版画コース		3	5	6	14
	小計	210	37	40	76	153
メディア表現科	イラストレーションコース		11	10	2	23
	絵本コース		6	5	4	15
	小計	190	17	15	6	38
合計	400	54	55	82	191	

◎ 造形学部

一般入学試験結果 (男女別/卒業年度別)

学科	一般方式							センターA・B方式						
	募集人員	志願者数			合格者数			募集人員	志願者数			合格者数		
		男性	女性	2017年度卒	男性	女性	2017年度卒		男性	女性	2017年度卒	男性	女性	2017年度卒
日本画学科	26	24	111	78	4	26	12	10	17	91	61	2	14	9
油絵学科 油絵専攻	72	107	268	225	20	68	47	30	90	248	212	15	39	30
油絵学科 版画専攻	9	20	54	50	2	10	6	5	18	41	38	2	15	10
彫刻学科	14	28	43	45	9	11	13	9	28	41	40	6	10	10
視覚伝達デザイン学科	72	192	563	527	14	87	59	30	143	494	453	9	49	31
工芸工業デザイン学科	65	132	204	218	19	73	62	45	119	194	211	33	86	71
空間演出デザイン学科	55	64	228	227	17	91	89	35	51	211	208	13	86	74
建築学科	40	95	85	114	25	25	30	15	91	71	102	24	18	26
建築学科 センターB方式								15	97	91	105	28	30	32
基礎デザイン学科	35	93	259	237	11	58	49	22	67	219	199	13	54	44
基礎デザイン学科 センターB方式								8	43	108	108	8	21	22
映像学科	46	81	88	126	23	31	38	15	68	78	114	15	10	13
映像学科 センターB方式								4	36	51	65	3	7	6
芸術文化学科	27	58	92	96	17	30	27	10	43	74	82	13	28	30
芸術文化学科 センターB方式								15	53	108	98	17	38	31
デザイン情報学科	52	106	228	221	25	87	68	26	77	175	177	25	62	51
デザイン情報学科 センターB方式								12	56	79	86	19	29	30
合計	513	1,000	2,223	2,164	186	597	500	306	1,097	2,374	2,359	245	596	520

公募制推薦入学試験【前期】

学科	募集人員	志願者数	一次合格者	二次合格者
日本画学科	4	31	28	11
油絵学科 油絵専攻	18	61	61	21
油絵学科 版画専攻	3	14	14	8
彫刻学科	5	15	15	6
工芸工業デザイン学科	20	45	41	21
空間演出デザイン学科	30	74	45	33
建築学科	10	31	31	12
基礎デザイン学科	8	28	19	8
映像学科 ディレクション資質重視型	7	6	6	6
芸術文化学科	12	20	20	18
デザイン情報学科	7	10	10	7
小計	124	335	290	151
英語力重視型	3	8	5	3
映像学科	3	6	6	3
芸術文化学科	3	2	2	1
デザイン情報学科	3	8	8	5
小計	12	24	21	12
数学力重視型	3	1	1	1
映像学科	3	1	1	1
小計	3	1	1	1
合計	139	360	312	164

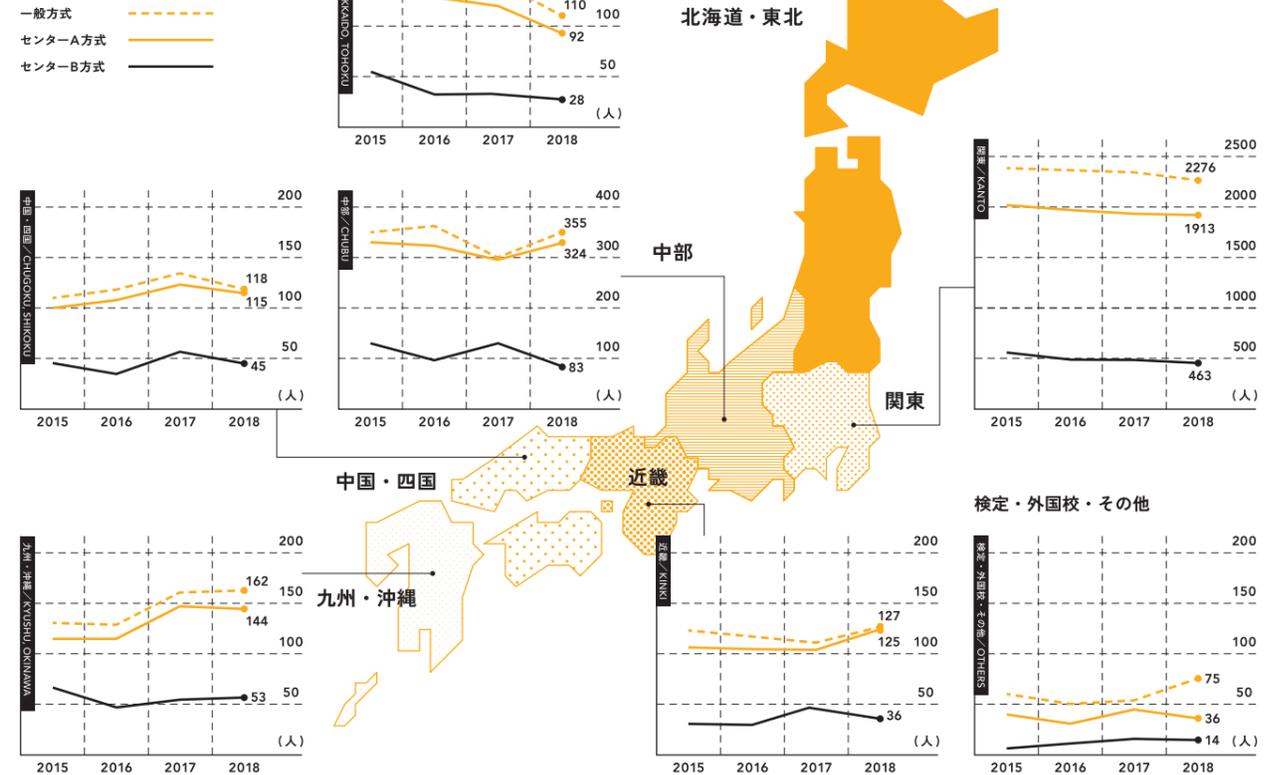
公募制推薦入学試験【後期】

学科	募集人員	志願者数	合格者
油絵学科 版画専攻	3	5	3
彫刻学科	5	9	6
映像学科 クリエーション資質重視型	7	40	9
合計	15	54	18

※ 10、11ページに掲載しているデータは、2017年9月から2018年2月に実施した入試結果です。その他の入試方式の結果は、本学webサイト(入試データ)でご確認ください。

都道府県別志願者数の推移

(2015~2018年度の一般入試結果から)



◎ 大学院造形研究科

修士課程入学試験結果

専攻・コース	募集人員	志願者数			合格者数			
		A日程	B日程	計	A日程	B日程	計	
美術専攻	28	日本画コース	-	14	14	-	7	7
		油絵コース	-	31	31	-	25	25
		版画コース	-	20	20	-	10	10
		彫刻コース	-	12	12	-	10	10
		造形理論・美術史コース	0	4	4	0	4	4
		芸術文化政策コース	6	5	11	1	1	2
デザイン専攻	28	視覚伝達デザインコース	35	53	88	6	5	11
		工芸工業デザインコース	-	48	48	-	13	13
		空間演出デザインコース	-	31	31	-	1	1
		建築コース	22	21	43	9	5	14
		基礎デザイン学コース	-	32	32	-	7	7
		映像コース	48	-	48	16	-	16
		写真コース	23	-	23	5	-	5
		デザイン情報学コース	7	6	13	2	0	2
合計	56	141	277	418	39	88	127	

## ◎ 大学院造形研究科

## 博士後期課程入学金及び授業料等

	前期分(入学時)	後期分(9月)
入学金(入学時のみ)	180,000円	—
授業料	592,500円	592,500円
維持費	15,000円	15,000円
施設費	150,000円	150,000円
合計	937,500円	757,500円
年間合計	1,695,000円 2年次以降 1,515,000円	

※ 入学時には別途、学生教育研究災害傷害保険料等が徴収されます。また、卒業年次には別途、校友会費(終身会費)が徴収されます。

## ◎ 造形学部通学課程

## 入学金及び授業料等

	前期分(入学時)	後期分(9月)
入学金(入学時のみ)	360,000円	—
授業料	592,500円	592,500円
実習費(学科により異なる)	14,750~32,750円	14,750~32,750円
維持費	15,000円	15,000円
施設費	150,000円	150,000円
合計	1,132,250~1,150,250円	772,250~790,250円
年間合計	1,904,500~1,940,500円 2年次以降 1,544,500~1,580,500円	

※ 実習費は、学科により金額が異なります(下記は年額)。  
日本画 33,000円、油絵 52,500円、彫刻・映像・デザイン情報 65,500円、視覚伝達デザイン 39,500円、工芸工業デザイン 57,500円、空間演出デザイン・建築・基礎デザイン・芸術文化 29,500円  
※ 入学時には別途、学生教育研究災害傷害保険料等が徴収されます。また、卒業年次には別途、校友会費(終身会費)が徴収されます。

## 委託学生

	委託学生 A	委託学生 B
登録料	45,000円	45,000円
受講料(講義)	34,500円	—
受講料(実技演習)	69,000円	—
受講料(1年以内)	—	592,500円
受講料(6か月以内)	—	296,250円
実習費	3,500円	実費
選考料	10,000円	10,000円

※ 委託学生 A: 授業科目の受講を目的とする者。  
※ 委託学生 B: 受入研究室及び担当教員の指導に基づき、本人の研究テーマについて修学することを目的とし、授業科目の受講を主たる目的としない者。  
※ 委託学生 A の受講料及び実習費は 1 単位当たりの額。  
※ 委託学生 B の実習費は、実習費用が伴う場合、その都度実費を本人が負担します。

## 修士課程入学金及び授業料等

	前期分(入学時)	後期分(9月)
入学金(入学時のみ)	180,000円	—
授業料	592,500円	592,500円
実習費(コースにより異なる)	14,750~32,750円	14,750~32,750円
維持費	15,000円	15,000円
施設費	150,000円	150,000円
合計	952,250~970,250円	772,250~790,250円
年間合計	1,724,500~1,760,500円 2年次以降 1,544,500~1,580,500円	

※ 実習費は、コースにより金額が異なります(下記は年額)。  
日本画 33,000円、油絵・版画 52,500円、彫刻・映像・写真・デザイン情報学 65,500円、造形理論・美術史・芸術文化政策・空間演出デザイン・建築・基礎デザイン学 29,500円、視覚伝達デザイン 39,500円、工芸工業デザイン 57,500円  
※ 入学時には別途、学生教育研究災害傷害保険料等が徴収されます。また、卒業年次には別途、校友会費(終身会費)が徴収されます。

## 科目等履修生

	一般	教職課程及び学芸員課程
登録料	45,000円	45,000円
受講料(講義)	34,500円	3,450円
受講料(実技演習)	69,000円	6,900円
実習費	3,500円	3,500円
教育実習費	—	10,000円
介護等体験費	—	14,000円
博物館実習費	—	21,000円
選考料	10,000円	10,000円

※ 受講料・実習費は 1 単位当たりの額。  
※ 教職課程及び学芸員課程: 大学の卒業生で教員免許取得及び学芸員資格取得を目的とする科目等履修生。  
※ 教職課程及び学芸員課程の登録料は、本学大学院に在籍している者の場合、免除されます。  
※ 別途、学生教育研究災害傷害保険料等が徴収されます。

## 学籍継続者(卒業延期者)

在籍料	65,000円
受講料(講義〈一般〉)	17,250円
受講料(講義〈教職・学芸員〉)	5,500円
受講料(実技演習)	34,500円
実習費	3,500円

※ 在籍料の算定は 5,000 円単位とし、その中間金額を超える場合は切上げを行います。  
※ 在籍料は前期(半年)のみの在籍の場合、半額の 32,500 円とします。  
※ 受講料・実習費は 1 単位当たりの額。

## 教職課程履修費及び学芸員資格取得に係る履修費

教職課程履修費(登録料)	24,500円
学芸員履修費(登録料)	21,000円

## 研究生

	学部・大学院	外国人
登録料	45,000円	45,000円
研究指導料	690,000円	1,190,000円
実習費(研究領域により異なる)	29,500~65,500円	29,500~65,500円
年間合計	764,500~800,500円	1,264,500~1,300,500円

※ 入学時には別途、学生教育研究災害傷害保険料及び学研災付帯賠償責任保険料合計 1,340 円(予定)が徴収されます。  
※ 本学入学・在籍に当たり留学ビザを取得・保有される方は別途、インバウンド留学生向け学研災付帯学生生活総合保険料 11,500 円(予定)が徴収されます。

## ◎ 造形学部通信教育課程

## 入学金及び授業料

	1年次	2・3・4年次
入学金(入学時のみ)	30,000円	—
授業料	285,000円	285,000円
合計	315,000円	285,000円

※ 編入学生に係る入学金は 30,000 円。  
※ 本学(別科を含む)、本学短期大学部(通信教育部を含む)、本学短期大学(通信教育部を含む)、武蔵野美術学校、武蔵野美術学園等の卒業生及び中退者は、入学金(編入学金)を免除。本学造形学部通学課程からの転籍者も入学金を免除。

## 面接授業受講料

- 鷹の台校・吉祥寺校・三鷹教室で開催の場合: 講義科目は 1 単位につき 8,000 円、講義科目以外の授業科目は 1 単位につき 13,000 円
- 上記以外の地方会場で開催の場合: 講義科目は 1 単位につき 10,000 円、講義科目以外の授業科目は 1 単位につき 16,000 円

## 教職課程履修費

- 教育職員免許法第 5 条第 1 項別表第 1 による場合: 114,000 円
- 教育職員免許法第 6 条第 2 項別表第 3 及び別表第 8 による場合: 57,000 円
- 教育職員免許法第 6 条第 3 項別表第 4 による場合: 57,000 円

## 学芸員課程履修費

69,000 円

## 科目等履修生

	一般	教職生 <sup>*1</sup>	教職生 <sup>*2</sup>	特修生
登録料	40,000円	40,000円	40,000円	40,000円
受講料(講義科目)	12,000円	8,400円	319,000円	12,000円
受講料(講義科目以外)	18,000円	12,600円		18,000円
審査料	10,000円	10,000円	10,000円	10,000円

\*1 教育職員免許法第 6 条別表第 3 及び別表第 8 による場合  
\*2 教育職員免許法第 6 条別表第 4 による場合  
※ 教育職員免許法第 6 条別表第 4 による場合の教職生を除き、受講料は 1 単位当たりの額。

## ◎ 武蔵野美術学園

登録料	施設費	授業料	実習費	維持費	保険料	合計
90,000円	52,500円	360,000円	52,500円	30,000円	900円	585,900円

## 入学金減免について

本学では、本学の卒業、修了者が再度本学に入学する場合、また、造形学部(兄弟姉妹が在籍する)の入学者を対象に、入学金が全額または半額免除される入学金減免制度を用意しています。

\*1 造形学部には、通信教育課程を含みます。  
\*2 短期大学部には、通信教育課程を含みます。また、専攻科修了後学位授与機構において学士の称号を得た者を含みます。  
\*3 造形学部(通信教育課程及び科目等履修生を除く)に在籍する学生の兄弟姉妹であり、新入学生となる者、また、本学の他の規則や制度等に基づき入学金の全額を免除されていない者とし、その一方の者とし、3人以上在籍する場合は、2人目から免除します。  
※ 転科・転専攻は、在学生の造形学部内での学籍異動なので、入学金は徴収しません。

	減免適用者	入学金
大学院造形研究科 博士後期課程	本学造形学部卒業後他大学大学院修士修了者(修了見込含む)	半額
	本学大学院修士修了者(修了見込含む)	徴収しない
大学院造形研究科 修士課程	本学造形学部卒業(卒業見込含む) <sup>*1</sup>	半額
	本学大学院修了者(修了見込含む)	半額
造形学部(1年次 入学・3年次編入 学・転籍)	本学短期大学卒業生 <sup>*2</sup> ・本学造形学部卒業(卒業見込含む) <sup>*1</sup> ・本学大学院修了者(修了見込含む)・本学通信教育課程からの転籍者	半額
造形学部 (1年次入学)	本学造形学部(兄弟姉妹が在籍する者(2018年度開始)) <sup>*3</sup>	徴収しない

◎ 大学奨学金 (給付型)

名称	対象	選考基準	支給額(年額)	採用人数
武蔵野美術大学奨学金	造形学部 大学院博士前期課程 (修士課程)	人物及び学力が優秀であり、かつ経済上の事情により修学することが困難であると認定された者	592,500円	50名
			300,000円	160名
武蔵野美術大学奨学金緊急採用	全学生	家計支援者が死亡、破産等により家計が急変した学生で、修学の継続が困難な学生	家計状況により決定	4名
武蔵野美術大学奨学金緊急採用(災害罹災用)	全学生	自然災害に罹災し、教務チームの授業減免制度を受けていない学生で、修学の継続が困難な学生	罹災程度により決定	定員なし
武蔵野美術大学大学院博士前期課程(修士課程)奨励奨学金	大学院博士前期課程(修士課程)	博士前期課程(修士課程)に在籍する優秀で意欲のある学生	500,000円	3名
武蔵野美術大学大学院博士後期課程奨励奨学金	大学院博士後期課程(博士課程)	大学院博士後期課程に在籍する優秀で意欲のある学生	592,500円 (3年間給付)	入学者数
武蔵野美術大学校友会奨学金	造形学部4年生	勉学に熱意をもつ学部4年生。卒業制作企画案により選考	100,000円	12名
武蔵野美術大学外国留学奨励奨学金	協定留学対象者	協定留学生として選考され、受入大学等の承認を得て留学が確定した者	留学期間に応じて日本学生支援機構海外留学支援制度(短期派遣)が定める派遣先地域による奨励金月額	協定留学確定者数

◎ 研究室推薦の奨学金 (給付型)

名称	対象	選考基準	支給額(年額)	採用人数
清水多嘉示賞	大学院博士前期課程(修士課程)彫刻コース	彫刻学科を卒業し、大学院彫刻コースに入学した学生で、卒業制作の成績が極めて優秀かつ作家としての将来性が有望な者	100,000円 (2年間給付)	1名
三林亮太郎賞	大学院博士前期課程(修士課程)空間演出デザインコース	空間演出デザイン学科を卒業し、大学院空間演出デザインコースに入学した学生で、卒業制作の成績が極めて優秀かつデザイナーとしての将来性が有望な者	100,000円 (2年間給付)	1名
三雲祥之助賞	大学院博士前期課程(修士課程)油絵コース	本学油絵学科を卒業し、大学院油絵コースに入学した学生で卒業制作が極めて優秀かつ作家としての将来性が有望である者	100,000円 (2年間給付)	1名
飯田三美賞	大学院博士前期課程(修士課程)工芸工業デザインコース	工芸工業デザイン学科を卒業し、大学院工芸工業デザインコースに入学した学生で、卒業制作の成績が極めて優秀かつデザイナーとしての将来性が有望な者	100,000円 (2年間給付)	1名
前田常作賞	大学院博士前期課程(修士課程)油絵コース 版画コース	油絵学科を卒業し、大学院油絵コース又は版画コースに入学した学生で、油絵学科の卒業制作の成績が極めて優秀であり作家としての将来性が有望な者	100,000円 (2年間給付)	各コース 1名
杉村奨学金	造形学部空間演出デザイン学科	空間演出デザイン学科に在籍し、優秀なる資質を有する学生	100,000円	1名
橋本修英奨学金	大学院博士前期課程(修士課程)建築コース	大学院建築コースに在籍し、優秀なる資質を有する学生	100,000円	1名
岡井奨学金	大学院博士前期課程(修士課程)視覚伝達デザインコース	大学院視覚伝達デザインコースに在籍し、優秀な資質を有する留学生	100,000円	1名
根岸奨学金	大学院博士前期課程(修士課程)油絵コース	大学院油絵コースに在籍し、造形学部在学中に「絵画組成」の授業を履修し、優秀な成績を修めた学生	100,000円	1名

◎ 外国人留学生を対象とした本学奨学金 (給付型)

名称	対象	選考基準	支給額(年額)	採用人数
武蔵野美術大学私費外国人留学生奨学金	造形学部、大学院博士前期課程(修士課程)の留学生	人物及び学力が優秀であり、かつ経済上の事情により修学することが困難であると認定された者	300,000円	6名

◎ 卒業生を対象とした奨学金 (給付型)

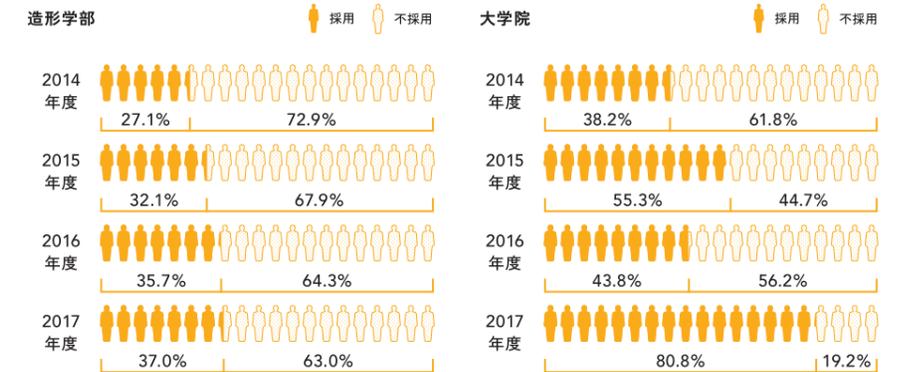
名称	対象	選考基準	支給額(年額)	採用人数
武蔵野美術大学海外留学研究奨励奨学金	学士・修士学位取得者	卒業若しくは修了後に、学位取得を目的として海外の大学院の正規課程に進学する者又は本学が大学院と同等であると認めた海外高等教育機関の正規課程に進学する者(募集年限あり)	1,000,000円	1名
ポール・スミス奨学金	造形学部・大学院博士前期課程(修士課程)の卒業年次生	優秀且つ才能ある学生で、ノッティンガムトレント大学の修士課程に推薦された学生	6,000ポンド+授業料	1名

◎ 授業料減免制度

名称	対象	選考基準	支給額	採用人数
経済的支援授業料減免	造形学部 大学院博士前期課程 (修士課程)	家計困窮により修学の継続が困難な学生	当該年度半期授業料の3割	220名
災害救助法による学費減免	全学生	災害救助法適用地域に学費支援者が在住し、自然災害で罹災し修学の継続が困難と認められた学生	罹災程度により決定	定員なし
私費外国人留学生授業料減免	造形学部・大学院博士前期課程(修士課程)に在籍する私費留学生	出席良好でかつ、経済的理由により修学の継続が困難な者	授業料の3割を上限	定員なし (原資上限あり)

武蔵野美術大学奨学金の新規採用状況

過去4年間の「武蔵野美術大学奨学金」の新規採用状況です。2016年度からは採用者数を10名増やし、210名に給付しています。なお、2017年度の適格出願者数は造形学部511名(在学者数比12.0%)、大学院26名(同10.1%)、採用者数は造形学部189名(同4.4%)、大学院21名(同8.1%)です。





本学の学生は創作活動を通じて、美術・デザインの専門性を高めながら、幅広い教養やものごとを深く考える力、そしてあらゆる表現手段を用いたコミュニケーション能力を養っていきます。言い換えれば、本学での4年間は、社会人として必要な基礎を固めていく大切な時間であり、大学におけるすべての活動がキャリア形成につながっているのです。学生一人ひとりが納得のいく進路選択ができるよう、キャリアセンターや各学科研究室できめ細かな進路指導を実施。多彩なキャリア・就職支援体制を整えて、夢の実現をサポートしています。

◎ 進路・就職支援

キャリア支援(1年次～)

入学直後から、将来の夢や“なりたい自分”をイメージし、自分で考え、行動する力を身につけられるよう様々な支援プログラムを展開しています。

- ◎ 新入生進路就職オリエンテーション | 入学直後から将来の進路を見据え、目的意識を持って有意義に大学生活を送ることができるよう、学び・進路・就職について考えるオリエンテーションを実施しています。
- ◎ 進路就職講座(1回/年) | 美術大学の特性を生かし、幅広い視点から進路を考える基礎講座です。全学年を対象にしています。
- ◎ キャリア設計基礎(前期・後期各2単位) | 社会や職業、自己への理解を深めながら、生涯を通じたキャリアプランを主体的に設計できる基礎力を身につけることを目的とした正課授業です。

インターンシップ

インターンシップでは企業や公共機関、各種団体等での就労体験を通じて、社会への視野を広げ、業界や職種への理解を深めることができます。本学では民間企業をはじめ、美術・博物館、市役所などの公共機関、地域の文化活動や環境保護活動を行っている団体など、多彩な領域のインターンシップを紹介しています。また、インターンシップに参加するにあたっての心構えや探し方、諸手続の進め方のほか、先輩からの体験談を聴くことができるインターンシップオリエンテーションも実施しています。

◎ インターンシップ参加実績(2017年度実績より一部抜粋)

AOI Pro. / DeNA / KADOKAWA / TBSテレビ / 秋田市役所 / アクア / 映画スタッフ育成事業 / エポック社 / オカムラ / オリエンタルランド / カシオ計算機 / カリモク家具 / グラフィック / 小糸製作所 / コクヨ / コロプラ / サイバーエージェント / シマノ / シミズオクト / スクウェア・エニックス / セガ / そごう・西武 / ソニーミュージック / 大日本印刷 / チームラボ / 電通 / 徳島県立近代美術館 / トヨタ自動車 / 日産自動車 / 日本デザイン振興会 / 乃村工藝社 / 博報堂 / 美術出版社 / 日立製作所 / ファーストリテイリング / フジテレビジョン / 富士フイルム / フレーベル館 / 本田技研工業 / 毎日新聞社 / ミクシィ / 三越伊勢丹 / 三菱電機 / ヤマハ / レイアップ

主な就職支援行事(3年次)

4月～6月	第1回進路・就職ガイダンス、インターンシップオリエンテーション、ポートフォリオ作成支援プログラムガイダンス、就活応援講座 業界・職種研究会(5月～随時)、進路・就職講座
9月	第2回進路・就職ガイダンス
10月	企業ガイダンス、ポートフォリオ・プレゼンテーション指導会

就職支援(3・4年次)

就職採用試験のスケジュールに合わせて、タイムリーかつ実践的なプログラムを提供しています。

- ◎ 進路・就職ガイダンス | 就職活動を行ううえで必要となる基本的な事項等の情報を提供。3年次の4月から4年次にかけて計3回、実施しています。
- ◎ 業界・職種研究会 | 学生の関心が高い業界・職種の第一線で活躍している方(主に卒業生)が講師として参加する研究会です。実際の仕事内容について理解を深め、進路選択に役立ちます。

求人情報等の提供

企業を正しく知ることが、就職への第一歩です。キャリアセンターでは企業の求人情報をタイムリーに提供しています。

- ◎ 進路情報システム | 本学独自の就職情報システムで約7,000社の企業等のデータを収集しており、学生はインターネット経由でどこからでも利用できます。
- ◎ 進路情報スペース | キャリアセンター内には、進路・就職に関する情報誌やパンフレットの配布、採用を行っている企業からの求人票の閲覧などができるスペースを設けています。また、卒業生が就職活動で利用したポートフォリオを閲覧することができます。
- ◎ 学内での会社説明会 | 年間100社を超える学内での会社説明会を実施しています。企業等の採用担当者や本学卒業生より直接会社の説明を受けられる機会です。

キャリアセンター・キャリアカウンセラーによる就職相談

キャリアセンターの相談窓口では、学科別の担当者およびキャリアカウンセラーが個別相談を受け付けています。また、履歴書・エントリーシートの書き方、クリエイティブ系の就職活動に必要なポートフォリオのつくり方、模擬面接など、進路に関することについて全般的にバックアップ。一人ひとりの個性や強みを生かした就職活動を行えるよう、きめ細かなサポートを展開しています。

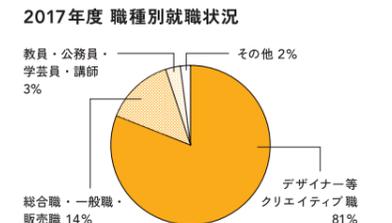
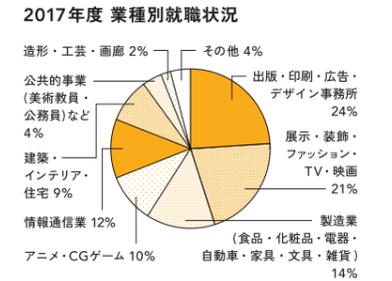
11月	内定者報告会、ポートフォリオ展示会、就職模擬試験
12月	業界セミナー(随時)、総合職講座、就活なんでも相談会
2月	合同会社セミナー(随時)、就活スタート準備講座、OBOGトーク
3月	学内会社説明会(単独・合同)(随時)

◎ 2017年度卒業生の進路状況(2018年5月1日現在)

近年では造形感覚や造形能力を持つ人材が広く社会から求められるようになり、作家やデザイナー以外にも、様々な企業へ就職の可能性が広がっています。美術大学で培われた幅広い視野と高い専門性を基本としながら、新しい領域を開拓していく人材を数多く輩出しているのも、本学の特徴といえます。

造形学部

学科	卒業生	就職希望者	就職者	進学者	その他 作家活動を含む	就職率 (就職者/希望者)
日本画学科	33	17	17	4	12	100%
油絵学科	143	70	57	31	55	81%
彫刻学科	35	15	15	9	11	100%
視覚伝達デザイン学科	108	87	81	6	21	93%
工芸工業デザイン学科	138	98	91	8	39	93%
空間演出デザイン学科	98	65	59	9	30	91%
建築学科	76	42	38	16	22	90%
基礎デザイン学科	78	52	47	2	29	90%
映像学科	89	53	47	9	33	89%
芸術文化学科	75	53	47	4	24	89%
デザイン情報学科	105	86	81	0	24	94%
合計	978	638	580	98	300	91%



大学院造形研究科

コース	修了者	就職希望者	就職者	進学者	その他 作家活動を含む	就職率 (就職者/希望者)
日本画コース	12	5	5	1	6	100%
油絵コース	27	9	9	1	17	100%
版画コース	7	2	1	0	6	50%
彫刻コース	11	1	1	2	8	100%
造形理論・美術史コース	0	0	0	0	0	-
芸術文化政策コース	3	2	2	0	1	100%
視覚伝達デザインコース	6	5	4	0	2	80%
工芸工業デザインコース	18	9	8	2	8	89%
空間演出デザインコース	6	4	3	0	3	75%
建築コース	10	7	4	0	6	57%
基礎デザイン学コース	8	5	2	0	6	40%
映像コース	5	4	3	0	2	75%
写真コース	5	2	2	0	3	100%
デザイン情報学コース	2	1	1	0	1	100%
博士後期課程 造形芸術専攻	2	1	1	0	1	100%
合計	122	57	46	6	70	81%

※修了者の他、満期退学者も含む。

## ◎ 造形学部学科別就職実績 (2015～2017年度実績より抜粋)

## 日本画学科

[出版・印刷・広告・デザイン事務所]  
日本開発グループ/東栄広告/マーキュリー  
[展示・装飾・ファッション・TV・映画]  
日本テレビアート/金井大道具/クレアル/鞆工房山本/テレビ山梨  
[製造業(食品・化粧品・電器・自動車・家具・文具・雑貨)]  
Ouga/カインズ/スガツネ工業/日本アーク/ブルーブルーエシヤパン  
[建築・インテリア・住宅]  
ディーワークス/横森製作所  
[アニメ・CG・ゲーム]  
任天堂/カプコン/コナミグループ/ジェー・シー・スタッフ/マーベラス/メトロ/Aiming  
[情報通信業]  
あたらす二十一年/イクシール/コロブラ/マイネット  
[公共的事業(美術教員・公務員など)]  
東京都教員/特定非営利活動法人道  
[造形・工芸・画廊]  
糸あやつり人形一糸座

## 油絵学科

[出版・印刷・広告・デザイン事務所]  
佐川印刷/岐阜文芸社/エスバック/アーク/キンコーズジャパン/セントラルプロフィックス/東京オフ印刷  
[展示・装飾・ファッション・TV・映画]  
俳優座劇場/AOI Pro./テレビ朝日/角川大映スタジオ/日本テレビアート/俄/中川政七商店/イビサ/45RPMスタジオ/プチパトージャパン  
[製造業(食品・化粧品・電器・自動車・家具・文具・雑貨)]  
新東京フード/世界堂/ユザワヤ商事/田島ルーフィング  
[建築・インテリア・住宅]  
DNP住空間マテリアル/天童木工/三谷産業/パークコーポレーション  
[アニメ・CG・ゲーム]  
コーエーテックモジュール/フロム・ソフトウェア/A-1ピクチャーズ/カプコン/Cygames/1UPスタジオ/セガグループ/DeNA/レベレファイブ  
[情報通信業]  
IMAGICA イメージワークス/サイバーエージェント/コプロラ/インペーションシステム  
[公共的事業(美術教員・公務員など)]  
東京都教員/埼玉県教員/千葉県教員/寧波大学科学技術学院/福武財団(アートサイト直島)  
[造形・工芸・画廊]  
藤浪小道具/オオタファインアーツ  
[その他]  
阪急阪神百貨店/パルコ/大丸松坂屋百貨店/紀伊国屋書店/イオンリテール

## 彫刻学科

[出版・印刷・広告・デザイン事務所]  
スタジオ玄  
[展示・装飾・ファッション・TV・映画]  
昭栄美術/金井大道具/土屋鞆造所/アックス  
[製造業(食品・化粧品・電器・自動車・家具・文具・雑貨)]  
フィアローコーポレーション/小峰玩具製作所/本田技術研究所/スズキ  
[アニメ・CG・ゲーム]  
スクウェア・エニックス/コーエーテックモジュール/マッドハウス/ILCA  
[情報通信業]  
ミツエーリンクス/アイビーキューブ  
[公共的事業(美術教員・公務員など)]  
神奈川県教員/新宿区  
[造形・工芸・画廊]

平和マネキン  
[その他]  
東京リサイクル

## 視覚伝達デザイン学科

[出版・印刷・広告・デザイン事務所]  
大日本印刷/凸版印刷/図書印刷/光村印刷/朝日新聞社/共同通信社/毎日新聞社/レンゴ/電通/電通テック/博報堂/博報堂プロダクツ/東急エージェンシー/東北新社/ADKアーツ/nendo/6D-K/カナリヤ/サン・アド/たき工房/ブラビス・インターナショナル/アドブレーション/東京アドデザイナーズ/タイププロジェクト  
[展示・装飾・ファッション・TV・映画]  
IMAGICA/アックス/NHKアート/テレビマンユニオン  
[製造業(食品・化粧品・電器・自動車・家具・文具・雑貨)]  
サンリオ/べんて/日清食品/ナリス化粧品/アサヒ飲料/赤城乳業/花王/資生堂/クレープストーン/日本食研HD  
[建築・インテリア・住宅]  
乃村工芸社/TSP太陽  
[アニメ・CG・ゲーム]  
コーエーテックモジュール/カプコン/コナミグループ/プロダクション・アイズ/びえろ/Aiming/セガインタラクティブ  
[情報通信業]  
ヤフー/コロブラ/ニフティ/カヤック/富士ソフト/博報堂アイ・スタジオ  
[公共的事業(美術教員・公務員など)]  
東京都教員

## 工芸工業デザイン学科

[出版・印刷・広告・デザイン事務所]  
博報堂/nendo/アートブレーション  
[展示・装飾・ファッション・TV・映画]  
丹青社/ジーク/七彩/博展/モデュレックス/日本テレビアート/ノリタケ/マナマナ/アラ商事/俄/コム・デ・ギャルソン  
[製造業(食品・化粧品・電器・自動車・家具・文具・雑貨)]  
イトーキ/キテイランド/小糸製作所/シマノ/タカラトミー/トヨタ自動車/日産自動車/スズキ/本田技術研究所/日野自動車/三菱自動車工業/トヨタ紡織/トヨタ車体/ナカバヤシ/日立製作所/ブラザー工業/フェリシモ/全日金屋/セイコーエプソン/リコー/富士通ゼネラル/東芝/ハリオガラス/河淳/ケイ・ウノ/ヴァンドームヤマダ/ツインバード工業/鞆工房山本/カシオ計算機/三菱電機/日立工機/オリバー/マルニ木工/バラマウントベッド  
[建築・インテリア・住宅]  
オカムラ/カリモクグループ/DNP生活空間/YKK AP/LIXILグループ  
[アニメ・CG・ゲーム]  
カプコン/セガゲームズ/ウニコ  
[情報通信業]  
コロブラ

## 空間演出デザイン学科

[出版・印刷・広告・デザイン事務所]  
コンセプト/アオヤマ/フォト・アート  
[展示・装飾・ファッション・TV・映画]  
金井大道具/歌舞伎座舞台/ジーク/スペース/船場/丹青社/TSP太陽/ディープレックス/東宝舞台/ドラフト/七彩/乃村工芸社/パウハウス丸栄/博展/パルコスベースシステムズ/ケイ・ウノ/テレビ朝日クリエイティブ/ディレクションズ/バーニーズジャパン/マナマナ/モデュレックス  
[製造業(食品・化粧品・電器・自動車・家具・文具・雑貨)]  
中川政七商店/メリーチョコレートカムパニー/オカムラ/吉忠マネキン/ウェルカム  
[建築・インテリア・住宅]  
大成建設/コトブキ/オークビル/イリア/コクヨエンジニアリング&テクノロジ/ミサワホーム/一条工務店  
[アニメ・CG・ゲーム]  
スタジオジブリ/セガ  
[情報通信業]  
サイバーエージェント  
[その他]  
大丸松坂屋百貨店/阪急阪神百貨店

家具・文具・雑貨]  
中川政七商店/メリーチョコレートカムパニー/オカムラ/吉忠マネキン/ウェルカム  
[建築・インテリア・住宅]  
大成建設/コトブキ/オークビル/イリア/コクヨエンジニアリング&テクノロジ/ミサワホーム/一条工務店  
[アニメ・CG・ゲーム]  
スタジオジブリ/セガ  
[情報通信業]  
サイバーエージェント  
[その他]  
大丸松坂屋百貨店/阪急阪神百貨店

## 建築学科

[出版・印刷・広告・デザイン事務所]  
凸版印刷/アサツデー/ケイ/電通テック  
[展示・装飾・ファッション・TV・映画]  
昭栄美術/スペース/船場/七彩/丹青社/乃村工芸社/三越伊勢丹プロパティ/デザイン/テレビ朝日クリエイティブ/製造業(食品・化粧品・電器・自動車・家具・文具・雑貨)  
ムーンスター/サン・アロー/貴和製作所  
[建築・インテリア・住宅]  
スウェーデンハウス/積水ハウス/大和ハウス工業/高松建設/タマホーム/東京建物/戸田建設/野村不動産パートナーズ/三井ホーム/YKK AP  
[アニメ・CG・ゲーム]  
コーエーテックモジュール/タツノコ  
[その他]  
宮内庁/LEGOLAND® Japan

## 基礎デザイン学科

[出版・印刷・広告・デザイン事務所]  
凸版印刷/小松総合印刷/日庄/レンゴ/コンセント/ティ・デイ・エス/博報堂/ADKアーツ/ビービーメディア/東急エージェンシー/博報堂プロダクツ/ピークス/ブラビス・インターナショナル/カヤック/ブレーション  
[展示・装飾・ファッション・TV・映画]  
昭栄美術/スペース/パルコスベースシステムズ/コム・デ・ギャルソン  
[製造業(食品・化粧品・電器・自動車・家具・文具・雑貨)]  
資生堂/ショウワノート/デザインフィル/ロフト/TASAKI/ツインバード工業/コニカミノルタ/ライオン/パナソニック/ダイワコーポレーション/トンボ鉛筆/常盤業編集センター/大広/東急エージェンシー/ジェイアール東海エージェンシー/広美/東北新社/たき工房/ティール・ワイ・オー/東京アドデザイナーズ/ブラビス・インターナショナル/電通クリエイティブX/太陽企画/草野剛デザイン事務所  
[展示・装飾・ファッション・TV・映画]  
日本テレビアート/オリエンタルランド/エトワール海渡/昭栄美術  
[製造業(食品・化粧品・電器・自動車・家具・文具・雑貨)]  
M&Iアート  
[その他]  
東日本旅客鉄道

## 映像学科

[出版・印刷・広告・デザイン事務所]  
共同印刷/樺出版社/ADKアーツ/ボール/ AOI Pro./博報堂プロダクツ/ピラミッドフィルム/アドブレーション/ピークス/太陽企画/ロボット  
[展示・装飾・ファッション・TV・映画]  
イッセイミヤケ/NHKエンタープライズ/ NHKメディアテック/ロジック/昭栄美術/博展/フラックス  
[製造業(食品・化粧品・電器・自動車・家具・文具・雑貨)]  
中川政七商店/メリーチョコレートカムパニー/オカムラ/吉忠マネキン/ウェルカム  
[建築・インテリア・住宅]  
大成建設/コトブキ/オークビル/イリア/コクヨエンジニアリング&テクノロジ/ミサワホーム/一条工務店  
[アニメ・CG・ゲーム]  
スタジオジブリ/セガ  
[情報通信業]  
サイバーエージェント  
[その他]  
大丸松坂屋百貨店/阪急阪神百貨店

具・文具・雑貨]  
俄/パナソニック  
[建築・インテリア・住宅]  
田島ルーフィング  
[アニメ・CG・ゲーム]  
カプコン/コーエーテックモジュール/ス/コナミグループ/タツノコ/東映アニメーション/バンダイナムコグループ/プロダクション・アイズ/セガインタラクティブ/白組  
[情報通信業]  
サイバーエージェント/チームラボ/DMM.com/松竹映像センター  
[その他]  
高島屋/日本芸術文化振興会

## 芸術文化学科

[出版・印刷・広告・デザイン事務所]  
日経印刷/大東印刷工業/第一紙行/モリサワ/アサツデー/ケイ/電通テック/DNPメディアクリエイティブ/オーシャンズ/太陽企画/ティ・デイ・エス/トップラングラフィックコミュニケーションズ  
[展示・装飾・ファッション・TV・映画]  
TSP太陽/やまと/七彩/グリーンディスプレイ/コム・デ・ギャルソン/丹青社/ムラヤマ/クリエイティブソサ  
[製造業(食品・化粧品・電器・自動車・家具・文具・雑貨)]  
スガツネ工業/貴和製作所/サンエック/ニトムズ/はせがわ  
[アニメ・CG・ゲーム]  
ダイナモビクチャーズ/コロブラ/ニューギン  
[情報通信業]  
アイ・モバイル/アドフォース/クルコム/BFT  
[公共的事業(美術教員・公務員など)]  
東京都/相模原市/埼玉県三芳町/八王子市/市川市/ふれあい財団/東京芸術大学/佐久市教員/佐野美術館  
[造形・工芸・画廊]  
アトリエ・エビス/シロ・スタジオ/うかい  
[その他]  
パルコ/大丸松坂屋百貨店/静岡鉄道/そごう・西武/三越伊勢丹/高島屋/マイナビ/福島放送/明治安田生命保険

## デザイン情報学科

[出版・印刷・広告・デザイン事務所]  
大日本印刷/凸版印刷/共同印刷/宝印刷/くらしの友/翔泳社/毎日新聞社/産業編集センター/大広/東急エージェンシー/ジェイアール東海エージェンシー/広美/東北新社/たき工房/ティール・ワイ・オー/東京アドデザイナーズ/ブラビス・インターナショナル/電通クリエイティブX/太陽企画/草野剛デザイン事務所  
[展示・装飾・ファッション・TV・映画]  
日本テレビアート/オリエンタルランド/エトワール海渡/昭栄美術  
[製造業(食品・化粧品・電器・自動車・家具・文具・雑貨)]  
タカラベルモント/クレープストーン/ヤマキ/クーリア/三菱電機エンジニアリング  
[アニメ・CG・ゲーム]  
任天堂/スクウェア・エニックス/コナミ/カプコン/フロム・ソフトウェア/Cygames/アカツキ/マッドハウス/まんだらけ  
[情報通信業]  
ヤフー/サイバーエージェント/ジャストシステム/チームラボ/ミクシィ/ビービーメディア/ミズエーリンクス/三菱総研DCS/博報堂アイ・スタジオ  
[その他]  
トール/星野リゾート/東日本旅客鉄道/瑞穂町役場/センコー商事

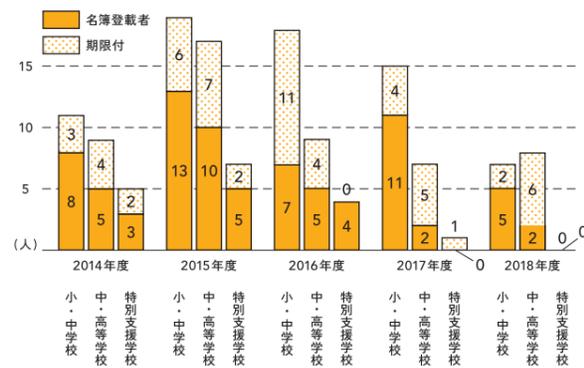
## ◎ 教員免許状授与件数

## 2017年度卒業者の免許状授与件数

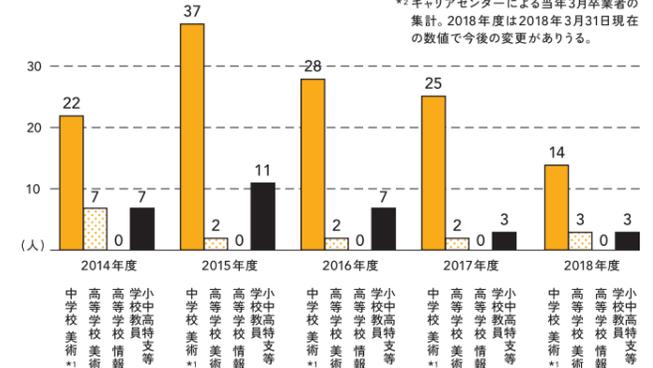
(通学課程) 課程認定学科専攻	授与者数	免許取得者数(免許状種別ごとに表示)			
		高等学校			中学校
		美術	工芸	情報	美術
日本画学科	8	8	0	0	8
油絵学科	28	28	3	0	28
彫刻学科	3	3	0	0	3
視覚伝達デザイン学科	2	2	0	0	2
工芸工業デザイン学科	2	2	1	0	2
空間演出デザイン学科	6	6	1	0	6
芸術文化学科	6	6	1	0	6
デザイン情報学科	0	0	0	0	0
科目等履修生	8	6	2	0	8
造形学部 小計	63	61	8	0	63
美術専攻	8	8	0	0	8
デザイン専攻	0	0	0	0	0
大学院 小計	8	8	0	0	8
合計	71	69	8	0	71

## ◎ 就職状況

## 過去5年間の東京都教員選考合格者実績推移



## 過去5年間の学校教員の採用実績推移



\*1 各教育委員会による回答の集計(教諭等の専任者のみ)。  
\*2 キャリアセンターによる当年3月卒業者の集計。2018年度は2018年3月31日現在の数値で今後の変更がありうる。

## 本学独自の質向上の取り組み

本学では、教育職員免許法施行規則等に定める授業科目の充実にも努めるほか、大学独自の質向上の取組として、大学独自教科書の発行をはじめ、2006年に文部科学省より「特色ある大学教育支援プログラム」に選定された「美術と福祉プログラム」、造形ファシリテーション能力獲得プログラムなど、様々な取り組みを実施しています。

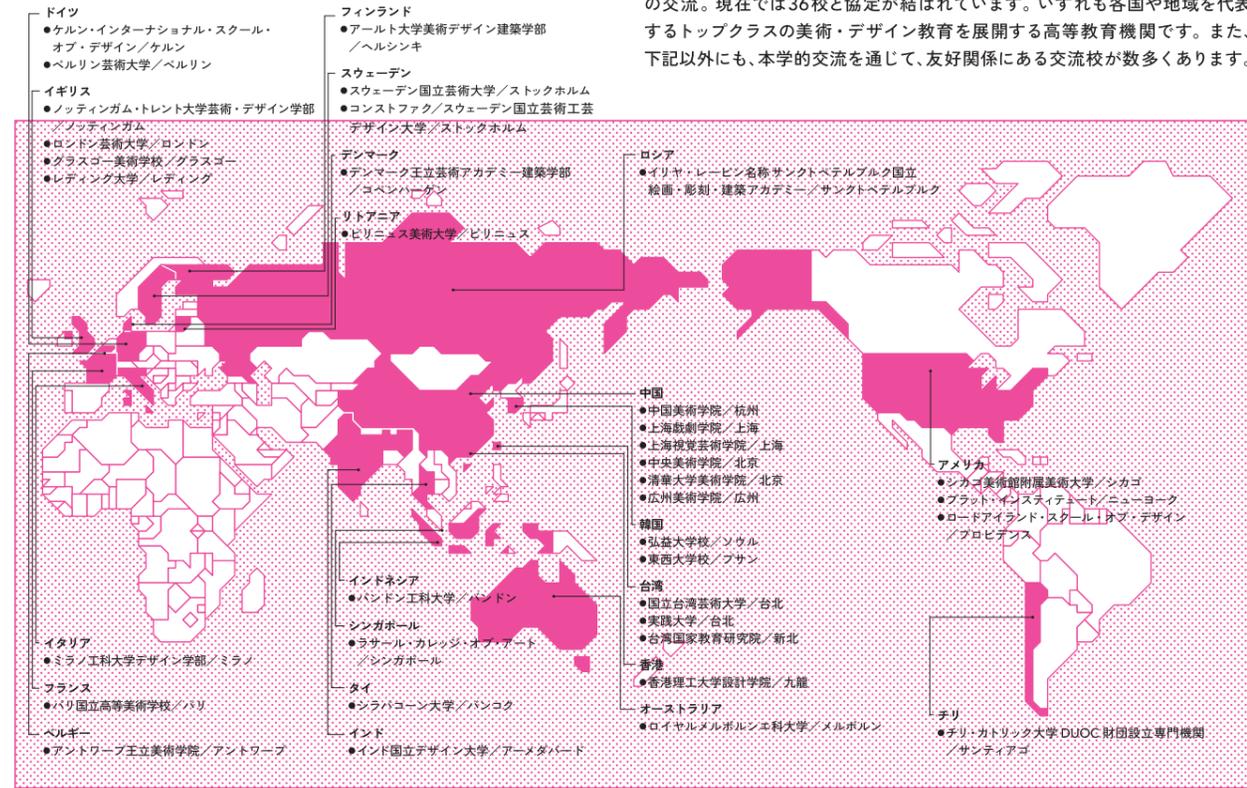


教職課程研究室の指導のもと、教職課程履修学生を中心に学生主体の課外活動として行う「旅するムサビ・ムサビる」。小中学校や地域団体と連携し、造形ワークショップや公開制作などを実施しています



本学は前身である帝国美術学校が東アジアから多くの学生を受け入れたことに始まり、美術・デザインの高等教育機関として先進的に国際交流活動に取り組んできた歴史があります。世界有数の美術・デザイン大学と協定を結び、国際交流プロジェクトの推進や留学生の派遣・受け入れ、学生の海外での活動支援などを実施。さらに、2012年には文部科学省「グローバル人材育成推進事業」において、芸術系大学で唯一の採択校となるなど、学生が世界への視野を広げる環境づくりをいっそう充実させています。

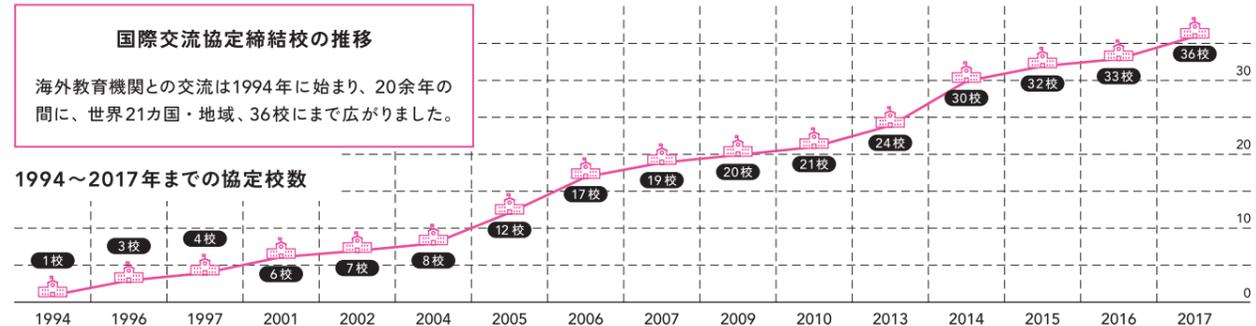
◎ 海外教育機関との交流協定



◎ 協定(交換)留学制度

協定留学とは、本学と相互交流が締結されている外国の大学・大学院へ、協定留学生として留学する制度です。留学を希望する学生は、学内選考により選抜されます。現在、パリ国立高等美術学校、プラット・インスティテュート、アールト大学美術デザイン建築学部、ミラノ工科大学デザイン学部、ベルリン芸術大学、弘益大学校、ケルン・インターナショナル・スクール・オブ・デザイン、ロンドン芸術大学セントラル・セント・マーチンズ校の7カ国8大学と協定留学を行っており、各々の大学に毎年1、2名の在校生を半年～1年間派遣。協定校からは各校1、2名の学生を受け入れています。留学先で修得した単位は審査を経て本学の単位として認定されるほか、留学先の学費が免除され、海外留学奨学金が支給される経済的なメリットもあります。

オプ・デザイン、ロンドン芸術大学セントラル・セント・マーチンズ校の7カ国8大学と協定留学を行っており、各々の大学に毎年1、2名の在校生を半年～1年間派遣。協定校からは各校1、2名の学生を受け入れています。留学先で修得した単位は審査を経て本学の単位として認定されるほか、留学先の学費が免除され、海外留学奨学金が支給される経済的なメリットもあります。



◎ 協定留学状況 (2017年5月現在)

過去5年間の協定留学派遣・応募状況

派遣年度	パリ国立高等美術学校		アールト大学美術デザイン学部		ミラノ工科大学		プラット・インスティテュート		ベルリン芸術大学		弘益大学校		ケルン・インターナショナル・スクール・オブ・デザイン		ロンドン芸術大学セントラル・セント・マーチンズ校	
	F	D	F	D	F	D	F	D	F	D	F	D	F	D	F	D
2017	1(3)	1(2)	0(1)	2(4)	0(0)	1(2)	0(1)	1(3)	1(2)	2(4)	0(0)	0(0)	0(0)	1(2)	0(0)	0(0)
2016	0(0)	1(2)	0(0)	2(5)	0(0)	0(0)	0(0)	1(3)	1(3)	1(3)	0(0)	0(0)	0(0)	1(3)		
2015	0(0)	0(0)	0(0)	0(2)	0(0)	1(1)	0(0)	1(2)	1(2)	1(2)	0(0)	1(2)	0(0)	1(2)		
2014	0(1)	1(2)	0(0)	1(2)	0(0)	1(5)	0(0)	1(4)	0(0)	2(5)	0(0)	0(0)				
2013	0(1)	1(2)	0(0)	1(4)	0(0)	1(2)	1(1)	0(1)	0(1)	2(4)	1(1)	0(0)				

※上段は派遣者数、下段( )内は応募者数。 ※Fはファイン系、Dはデザイン系からの応募。 ※NTU(5名)除く。

過去5年間の協定留学受入状況

受入年度	パリ国立高等美術学校	アールト大学美術デザイン学部	ミラノ工科大学	プラット・インスティテュート	ベルリン芸術大学	弘益大学校	ケルン・インターナショナル・スクール・オブ・デザイン
2017	彫刻	映像 工デ	基礎デ 工デ	油絵 視デ	建築 映像(2)	視デ	基礎デ
2016	彫刻 映像	基礎デ、工デ(2) 映像	基礎デ	映像(2)	基礎デ、建築 彫刻	デ情	空デ
2015	映像(2)	映像(2) 基礎デ	デ情	工デ 映像(2)	建築、空デ 映像	基礎デ	視デ
2014	映像(2)	映像	基礎デ	日本画	建築 空デ	視デ	
2013	彫刻 映像	工デ 空デ	工デ デ情	なし	彫刻	油絵	

◎ 国・地域別留学生数 (2017年5月現在)

本学で学ぶ外国人留学生は、世界11カ国・地域からの361人。なかでも中国人留学生がもっとも多く220人に上ります。

国・地域	中国	韓国	台湾	香港	タイ	インドネシア	マレーシア	シンガポール	アルゼンチン	スウェーデン	ドミニカ共和国	合計
造形学部	140	83	17	3	1	2	2	1	1	0		251
大学院 修士課程	79	11	12	0	2	2	0	0	0	0	1	107
大学院 博士後期課程	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
合計	220	96	29	3	3	4	2	1	1	1	1	361

## ◎ 武蔵野美術大学グローバル人材育成プログラム

「武蔵野美術大学グローバル人材育成プログラム」は、「語学力やコミュニケーション能力」「主体性や積極性」「異文化理解／アイデンティティの確立」という三つのカテゴリと15項目からなるプログラムを通して、美術・デザインにおける高度な専門技術と知識を、海外においてもいかに発揮できる能力を養成する本学独自の国際教育です。



## 海外短期留学の促進

海外短期留学プログラムを授業期間外に実施。海外語学研修では英語とフランス語の海外大学での語学コースを設置、条件を満たすと単位を取得することができます。また海外協定校との留学プログラムも随時実施しています。



## 語学教育の拡充

造形学部の「文化総合科目」「学科別科目」に英語で行う授業を開設。TOEFL/IELTSトレーニングセッション、TOEFL ITPテスト、TOEIC、IPの実施など、語学教育カリキュラムを充実させており、幅広い語学力を身につけることが可能です。



## 国際交流プロジェクトの充実

海外の教育機関との共同プロジェクトを通して、新たな美術・デザイン教育の方法論を模索するとともに、本学の教育の在り方を世界に発信する「国際交流プロジェクト」。海外を訪れて現地の学生とともに制作やワークショップを行い、国籍や専攻を超えての異文化理解の機会となります。今後は正課授業の留学プログラムとしての実施も進めています。

## 2017年度採択一覧

国際交流プロジェクト名	代表者名	所属研究室
Kalikasan Sorsogon - craft design development in Philippines	伊藤真一教授	工芸工業デザイン学科
パリ国立高等美術学校×武蔵野美術大学 協定校プロジェクト	榊山祐和教授	油絵学科
フィンランドデザインと日本の形	十時啓悦教授	工芸工業デザイン学科
第12回中英韓日4か国学生交流展2017 in MAU	板屋緑教授	映像学科
Design with Bamboo and Rattan	板東孝明教授	基礎デザイン学科
バンドン工科大学×武蔵野美術大学 協定校プロジェクト	袴田京太郎教授	油絵学科
台湾国家教育研究院鑑賞プロジェクト 旅するムサビ in 台湾	三澤一実教授	教職課程
Global Design Initiative Workshop: GDI 2018	長澤忠徳教授	デザイン情報学科

## 海外コンペ応募の奨励

海外での活動のきっかけとなる、海外コンペティションへの応募を奨励します。コンペティションの案内、応募方法、取組方法などをきめ細かくサポートするほか、授業内での課題化も検討し、世界へ挑もうとする学生をバックアップしていきます。



## 世界の学びに触れる特別授業

本学では1950年代より、世界の第一線で活躍するアーティストやデザイナー、研究者を「訪問教授」として招聘してきました。各学科研究室を中心に、訪問教授による合同制作・講習会などを通して、学生は世界の学びに触れることができます。



## ◎ 科学研究費助成事業

科学研究費助成事業【科研費】(学術研究助成基金助成金/科学研究費補助金)は、全国の大学や研究機関において行われる様々な研究活動に必要な資金を研究者に助成する仕組みの一つで、人文・社会科学から自然科学まですべての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」(研究者の自由な発想に基づく研究)を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」であり、ピア・レビューによる審査を経て、独創的・先駆的な研究に対して助成されるものです。

## 最近の科学研究費助成事業による研究活動(採択状況)

研究代表者	研究課題名	研究年度	研究種目
高山 稔	日本の伝統装飾のアルゴリズム化とデジタル造形技術の併用による設計支援とその展開	2017年度～2019年度	基盤研究(C)
相原優子	ユダヤ系アメリカ文学に於ける身体的可憐性の考察	2017年度～2019年度	基盤研究(C)
志田陽子	アメリカにおける映画をめぐる文化現象と憲法：映画検閲から文化芸術助成まで	2017年度～2020年度	基盤研究(C)
三代純平	芸術系グローバル人材就労支援のための調査研究：芸術系元留学生のライフストーリー	2017年度～2020年度	若手研究(B)
松本隆	ロシア工房による施釉テラコッタ彫刻の制作技法研究—陶片の定量分析と再現実験	2017年度	奨励研究
圓山憲子	CWL不変量の応用に関する総合的研究	2016年度～2018年度	基盤研究(C)
牧野良三	舞台美術から見た日本のオペラ文化史的考察	2016年度～2018年度	基盤研究(C)
白石美雪	近代日本における職業としての音楽評論家の成立過程	2016年度～2019年度	基盤研究(C)
小澤智子	移民の習い事・教え事の継承・活用・変容の基礎研究—方法論的ナショナリズムの相対化	2016年度～2019年度	基盤研究(C)
北徹朗	初年次教育としての体育実技・演習の教育効果に関する研究	2016年度～2018年度	基盤研究(C)
小林昭世	デザインの基盤としての視覚化研究	2016年度～2019年度	基盤研究(C)
田中千賀子	大正期における新教育の実践と学校園	2016年度～2018年度	若手研究(B)
宮原ひろ子	トッパ堆積物を用いた宇宙線強度変動復元手法の開拓	2015年度～2017年度	挑戦的萌芽研究
高橋陽一	昭和戦前戦中期における日本精神論の興隆と退潮	2015年度～2018年度	基盤研究(C)
杉浦幸子	乳幼児の心理的発達に関わる美術館における鑑賞プログラムの分析と開発	2014年度～2016年度	挑戦的萌芽研究
相原優子	ユダヤ系アメリカ文学に於けるイスラエル象徴と平和のレトリックの考察	2014年度～2016年度	基盤研究(C)
岡崎乾二郎	相対運動描画ロボットによる媒体的認識の発現	2014年度～2016年度	基盤研究(B)
高山 稔	手続型モデリングと3Dプリンタを併用した装飾部材の設計支援とその応用に関する研究	2014年度～2016年度	基盤研究(C)
森敏生	体育科教育におけるスポーツ活動システムの自律的形成と体育授業の実践的方法論	2013年度～2015年度	基盤研究(B)
宮原ひろ子	過去4万年間の宇宙線強度変動・太陽圏構造と地球環境変動	2013年度～2016年度	基盤研究(B)
小林昭世	視覚化表現の統合に関する研究：ダイアグラムの拡張	2013年度～2015年度	基盤研究(C)
黒川弘毅	清水多嘉示が遺した資料の研究—近現代美術史の周辺と専門的美術教育について	2013年度～2015年度	基盤研究(C)
三澤一実	造形批評力の獲得を目指した校種間交流鑑賞プログラムの開発と普及システム作り	2013年度～2015年度	基盤研究(C)
白石美雪	ジョン・ケージにおけるジャポニズムとオリエンタリズムの再検討	2012年度～2015年度	基盤研究(C)
シャルル・クリストフ	山口勝弘のデジタルアーカイブ作成：日本メディアアート生成史の研究および記録化	2012年度～2015年度	基盤研究(C)
玉島敏子	近世前半の宮廷サロンにおける絵画制作と和歌の役割—屏風絵と寄合画帖を中心に—	2011年度～2013年度	基盤研究(C)
高橋陽一	近代日本の学問形成・教科書編纂と国学	2011年度～2014年度	基盤研究(C)
三代純平	留学生の就労支援環境構築のための基礎研究—元留学生のライフストーリー研究	2011年度～2014年度	若手研究(B)
田中正之	非ホワイト・キューブ的展示空間の歴史的考察	2010年度～2012年度	基盤研究(C)

## ◎ 共同研究

本学教員の研究活動を一層推進させることを目的として、教員が特定の研究課題について自主的にプロジェクト・チームを編成し共同で行っている研究に対し、大学は審査を行った上で研究費を助成しています。

## 共同研究助成一覧(平成29年度)

研究代表者	研究課題	概要
内田あぐり	日本画の伝統素材「膠」に関する調査研究	日本画の伝統素材「膠」の途絶えた製造技術を解明し、膠が日本の造形文化に与えた影響を調査する。日本画と台湾の膠彩画に共通する表現技法の比較・検討を行い、帝国美術学校の卒業生の作品を中心に近代日本画をアジアの視点から捉え、現代日本画の概念や今後のあり方を再考する。
川口起美雄	15世紀～17世紀から現在に至る西洋古典絵画技法の解釈とその展開のための基礎的研究	ルネッサンス期に確立した絵画技法の基本は500年に渡って、その時代により、又、風土生得的に形を換え乍ら現在へと繋がっています。本研究では15～17世紀のテンペラ技法、混合技法、油彩の諸技法の実際を提示し、その理解の上に学生自らが表現の再構築へと向かう事をめざしています。
朴亨國	金原省吾の教育とその成果について	本研究は、帝国美術学校から武蔵野美術学校に至る本学の歴史の中で金原省吾(1890～1958)が実践した教育の実像を闡明し、金原の聲に接した学生たちの卒業後の教育と制作の活動において、その成果を具体的に検証することを目的とする。

## ◎ 武蔵野美術大学パリ賞

武蔵野美術大学パリ賞(以下：パリ賞)は、1965年に創設され、本学が創立会員として使用権を有する「国際芸術都市」アトリエに1年間入居し、創作活動を認める賞です。その理念は、本学を卒業・修了した卒業生の中から将来の活躍が期待され、国際的視野を持つ者に、副賞として研究費100万円を授与し、ヨーロッパ留学と創作研究活動の機会を与えて支援することにあります。本学は、アトリエ(本館)、アトリエ(別館)の二つのアトリエを専有し、多くの卒業生を派遣してきました。1999年度からは、パリ賞の受賞者2名を各アトリエへ派遣しています。



## ◎ 産官学共同プロジェクト

既存の価値観の再考や新たな価値の創出が求められる時代の流れの中、本学では企業や地方自治体等との協力体制のもと、多彩なテーマによる産官学共同プロジェクトを実施しています。全学的なサポートのもとでいっそう力強く産官学共同プロジェクトを展開していくため、規約の整備を行い、受け入れ窓口として研究支援センター(RPC/Research Promotion Center)を設置し、それとともに産官学共同研究推進委員会がその推移に努めています。美術大学に脈々と根付く「課題発見力」と「思考力」、そして個々の専門領域での「表現力」を起点とし、産官学共同プロジェクトを通して社会と繋がり、社会から学び、社会貢献を果たすことを目指しています。

## 産官学共同プロジェクト一覧(2017年度)

『トーション ウィンドウディスプレイ制作』 株式会社 トーション + 芸術文化学科	『機能をデザイン化する装具の研究』 株式会社エンプラス研究所 + 工芸工業デザイン学科	『いすみ市大学生等連携地域活性化事業』 千葉県いすみ市 + 空間演出デザイン学科 + デザイン情報学科
『わらアートまつり 2017』 新潟県新潟市西蒲区 + 基礎デザイン学科	『将来モビリティデザイン研究』 株式会社ブリヂストン + 工芸工業デザイン学科	『スズキ、こんなの出せばいいのに。』 スズキ株式会社 + 工芸工業デザイン学科
『西蒲区PR映像制作』 新潟県新潟市西蒲区 + 基礎デザイン学科	『理化学研究所横浜地区展示プロジェクト 2017』 理化学研究所 + 油絵学科	『武蔵野美術大学公開講座「まちを元気にする仕事」』 えんぐみデザイン研究会 + 視覚伝達デザイン学科 + 武蔵野美術大学社会連携チーム
『UMARTs2017』 公益財団法人馬事文化財団 + 芸術文化学科	『徳島大学病院展示プロジェクト』 徳島大学病院 + 基礎デザイン学科	『Eastman Chemical 社製トライタンの用途開発と新しい価値の創造』 えんぐみデザイン研究会 + 視覚伝達デザイン学科 + 武蔵野美術大学社会連携チーム
『笠間市ししど わらまつり』 茨城県笠間市 + 基礎デザイン学科	『FUJIFILM-Project「世界は、ひとつずつ変えることができる。」』 富士フイルム株式会社 + 工芸工業デザイン学科	『婚姻届・出生届 新潟市西蒲区オリジナルデザイン作成業務』 新潟県新潟市西蒲区 + 基礎デザイン学科
『府中の森芸術劇場クリスマスディスプレイ』の制作に関する研究』 公益財団法人府中文化振興財団 + 芸術文化学科	『日本語学習および日本留学の魅力を伝える動画制作』 カシオ計算機株式会社 + 芸術文化学科 + 言語文化研究室	『「立川駅西地下道壁面アート化事業」における事業計画周知イベント委託』 東京都立川市 + 視覚伝達デザイン学科

## プロジェクト事例

富士フイルム株式会社デザインセンター + 工芸工業デザイン学科 ID 研究室  
責任者：中原俊三郎教授 期間：2017年9月4日～10月21日(7週間)

富士フイルム株式会社デザインセンター様との産学共同プロジェクトは、「学生と大学と企業が共に原点回帰し、もっと独創的且つ創造的なデザインを生み出す」ことをテーマに、インスタントカメラ、化粧品、ヘルスケアの3領域について、次世代市場の創出につながるようなサービスとプロダクトデザインの提案を目的に実施しました。

参加学生は、ID(インダストリアルデザイン)コースの3年生と大学院1年生です。期間中はデザイナーやメーカー、宣伝部員の方を毎週お招きし、市場トレンドやサービスの考え方などについて多くの助言をいただきました。近年は「デザイン」の領域が広がり、単にモノ・カタチを考えるだけでなく、サービスやプロダクトが提供する体験の価値が重視されています。学生が設定したコンセプトも、各自の調査・分析から引き出された潜在的なニーズや若い世代の価値観に基づく説得力のあるユニークな内容で、一つの提案に集約させるだけでなく、関連するアイテムやサービスまで総合的にデザインする積極的な姿勢が多く見られました。デザインセンターの皆様からも非常に評価をいただき、2018年度は「協力授業」という形式で、今回のプロジェクトの一部を3年次前期の授業として継続しています。

IDコースでは普段から総合的なプランニング力、デザイン力を養う課題に取り組んでいますが、産学共同プロジェクトを経験した学生は、やはり大きく成長します。人的交流の広がりや情報量も段違いですし、学生にとっては大学の学びが実社会につながることを実感するだけでなく、自身の新たな才能と可能性を発見できる貴重な機会になると思います。(談)



中原俊三郎  
武蔵野美術大学造形学部工芸工業デザイン学科卒業。株式会社日立製作所デザイン研究所(現研究開発グループ社会イノベーション統括本部)、本社宣伝部を経て、株式会社サロウデザイン設立。1994年武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科専任教員として着任。産学連携デザイン開発プロジェクト事業を積極的に展開している。



1



2

- 1 デザインセンタースタッフからテーマの確認やブランディング、現場でのデザインの進め方などが説明されたキックオフの様子
- 2 富士フイルム デザインセンターで実施された最終発表会

## その他の主な学外とのコラボレーション(2017年度)

『東京ミッドタウンキッズワークショップ「へんでこ・ロング・ワールド」』 公益財団法人日本グラフィックデザイナー協会 + 視覚伝達デザイン学科	『三重県鳥羽工会議所とのコラボレーション“答志島 アーティスト イン レジデンス”「遙か“さんでの底”へ」～僕たちの夢を届けた街～』 三重県鳥羽商工会議所 + 空間演出デザイン学科	『わらアートシンポジウム』 仙台311メモリアル記念館 + 基礎デザイン学科	『第14回全中国選抜日本語スピーチコンテスト』 株式会社日本経済新聞社 + 中国教育国際交流協会 + 日本華人教授会議 + 教養文化・学芸員課程研究室
『電車をつなく西地下道アート化プロジェクト』 立川市 + 視覚伝達デザイン学科	『高島屋立川店アート・プロジェクト「遠い町から来た話」～不思議な国の大物産展～』 高島屋立川店 + 空間演出デザイン学科	『北海道 キルギス共和国研修』 JICA帯広 + 基礎デザイン学科	『永遠の絆—連綿と続く長崎と中国の物語』 長崎県庁 + 教養文化・学芸員課程研究室
『2017ルネこだいら夏休みフェスタ 子どもの広場 まほうのくにへようこそ! きらきらマジカルカプセル』 2017ルネこだいら夏休みフェスタ実行委員会 + 視覚伝達デザイン学科	『グッドデザイン賞審査会』 公益財団法人日本デザイン振興会 + 基礎デザイン学科	『宮城県研修』 宮城県産業技術総合センター + 基礎デザイン学科	『第一回黄檗禅文化と海のシルクロードフォーラム』 福建清黄檗山万福禅寺 + 福建師範大学福清分校 + 教養文化・学芸員課程研究室
『小平市景観まちづくりセミナー』 小平市都市計画課 + 視覚伝達デザイン学科	『武蔵野美術大学公開講座「まちを元気にする仕事」』 えんぐみデザイン研究会 + 視覚伝達デザイン学科 + 武蔵野美術大学社会連携チーム	『岐阜大学講義』 岐阜大学応用生物科学部 + 基礎デザイン学科	『美濃橋事変80周年国際シンポジウム—戦争の溝をどう乗り越えるか』 中国社会科学院近代史研究所 + 中国抗日战争史学会 + 抗日战争研究編集部 + 日本華人教授会議 + 教養文化・学芸員課程研究室
『武蔵野美術大学公開講座「まちを元気にする仕事」』 えんぐみデザイン研究会 + 視覚伝達デザイン学科 + 武蔵野美術大学社会連携チーム	『「ケの美」展出展』 オルビス株式会社 + 基礎デザイン学科	『美濃加茂ヤギタワ制作』 美濃加茂市 + 基礎デザイン学科	『盧溝橋事変80周年国際シンポジウム—戦争の溝をどう乗り越えるか』 中国社会科学院近代史研究所 + 中国抗日战争史学会 + 抗日战争研究編集部 + 日本華人教授会議 + 教養文化・学芸員課程研究室
『「小平市図書館ブランディングプロジェクト「暮らしになじむ図書館」「ピンゴで捜そう!世界の中央」』 小平市中央図書館 + 視覚伝達デザイン学科	『Craft design development in Philippines』 DTI Sorsogon, Philippines + 基礎デザイン学科	『「わらアートサミット開催』 新潟市西蒲区岩室温泉 + 基礎デザイン学科	『第八回国際華商・清華フォーラム並びに華僑華人イノベーションフォーラム』 清华大学華商研究中心 + 中国華僑華人歴史研究所 + シンガポール南洋理工大學 + 昆山市華僑連合会 + 教養文化・学芸員課程研究室
『「立川駅西地下道壁面アート化事業」における事業計画周知イベント委託』 東京都立川市 + 視覚伝達デザイン学科	『ワイヤー/鉛筆デッサン/色面構成ワークショップ』 徳島県立名西高等学校 + 基礎デザイン学科	『「食ブランディングプロジェクト』 岐阜県美濃加茂市 + 基礎デザイン学科	『「第一回日中私立大学学長シンポジウム』 中国職業教育学会民弁職業技術教育分会 + 上海教育国際交流協会 + 日中科学文化技術中心 + 国際教育交流協議会 + 東京都専門学校各種学校協会 + 日本華人教授会議 + 教養文化・学芸員課程研究室
『「小平市図書館ブランディングプロジェクト「暮らしになじむ図書館」「ピンゴで捜そう!世界の中央」』 小平市中央図書館 + 視覚伝達デザイン学科	『「1st International Conference on Art, craft, Culture, and Design スピーチ』 バンドン工科大学 + 基礎デザイン学科	『「毎日骨太リサイクルアクション』 株式会社電通 + 株式会社雪印メグミルク + 芸術文化学科	『「日本華人教授会議の第14回年次国際シンポジウム「不確実性の時代における東アジア協力の在り方」』 日本華人教授会議 + 教養文化・学芸員課程研究室
『「小平市中央公民館げやき青年教室 + 異才たちのアート展プロジェクト + みんなでつくる音楽祭』 小平市中央公民館 + 障害者のつどい実行委員会 + みんなでつくる音楽祭実行委員会 + 視覚伝達デザイン学科	『「Meemデザイン学校連続講義』 Meemデザイン学校事務局 + 基礎デザイン学科	『「小山町フィルムクリエイターズアワード2017』 NPO法人小山町フィルムコミッション + 株式会社JDN + 映像学科	『「長崎県・福建省友好県締結35周年記念講演会「連綿と続く長崎と中国の絆」』 長崎県 + 長崎大学多文化社会学部 + 長崎県日中親善協議会 + 教養文化・学芸員課程研究室
『「小平市立第十二小学校校図の連携授業「未来の小平予想図」』 小平市立小平第十二小学校 + 視覚伝達デザイン学科	『「朗文堂私塾講義』 株式会社朗文堂 + 基礎デザイン学科	『「おおむら・あまみ国際学生映画祭』 文化庁 + おおむら・あまみ国際学生映画祭実行委員会 + 映像学科	『「白石美雪によるJust Composed 2018の楽しみ方』 横浜みなとみらいホール + 教養文化・学芸員課程研究室
『「小平市立上宿小学校との連携プロジェクト「上宿小学校マスコットキャラクター選定委員会活動」』 小平市立上宿小学校 + 視覚伝達デザイン学科	『「9th Bamboo Rattan Design Workshop』 バンドン工科大学 + 基礎デザイン学科	『「毎日骨太リサイクルアクション』 株式会社電通 + 株式会社雪印メグミルク + 芸術文化学科	『「全国憲法研究会「憲法記念講演会」:「憲法と夢:人々が憲法に託したもの」』 全国憲法研究会 + 教養文化・学芸員課程研究室
『「造形ワークショップ 小さな夏休み』 小平子ども劇場 + 小平自由遊びの会 + 視覚伝達デザイン学科	『「ベネツィアビエンナーレ 2018 日本館』 Japan Foundation + 基礎デザイン学科	『「毎日骨太リサイクルアクション』 株式会社電通 + 株式会社雪印メグミルク + 芸術文化学科	『「講演 & 音楽ライブ「憲法と希望」』 大田区議会議員 奈須りえ + 教養文化・学芸員課程研究室
『「若い力と市民団体の連携を考えるシンポジウム 地域と共に学生の成長の場を』 公益財団法人東京都市町村自治調査会多摩交流センター + 東京TAMAタウン誌会 + 視覚伝達デザイン学科	『「上越市南本町3丁目地区景観まちづくり活動』 上越市役所 + 上越市南本町3丁目地区 + 基礎デザイン学科	『「毎日骨太リサイクルアクション』 株式会社電通 + 株式会社雪印メグミルク + 芸術文化学科	『「第19回宇宙と天文の講演会「活動的な太陽と地球の気候変動」』 月光天文台 + 教養文化・学芸員課程研究室
『「都立小平特別支援学校中部部社会科見学』 都立小平特別支援学校 + 視覚伝達デザイン学科	『「立川市アートインファーム』 アートインファーム + 立川市富士見町住宅 + 基礎デザイン学科	『「毎日骨太リサイクルアクション』 株式会社電通 + 株式会社雪印メグミルク + 芸術文化学科	『「地球永住計画 賢者に訊く〜宮原ひろ子×関野吉晴〜』 関野吉晴 + 教養文化・学芸員課程研究室
『「小平NPO ボランティアセミナー』 小平NPO セミナー推進委員会 + 視覚伝達デザイン学科	『「立川市富士見町団地アートフェス』 アートインファーム + 立川市富士見町住宅 + 基礎デザイン学科	『「毎日骨太リサイクルアクション』 株式会社電通 + 株式会社雪印メグミルク + 芸術文化学科	『「Gちゃんれ』 一般社団法人日本ゴルフ場経営者協会 + ゴルフ市場活性化委員会 + 身体運動文化研究室
『「小平市公共施設マネジメント推進委員会』 小平市企画政策部行政経営課 + 視覚伝達デザイン学科	『「日韓都市デザイン交流会』 景観デザイン支援機構 + 韓国中央大学 + 基礎デザイン学科	『「毎日骨太リサイクルアクション』 株式会社電通 + 株式会社雪印メグミルク + 芸術文化学科	『「MUSA 美×プーマ キャディバッグデザインコンペ』 プーマジャパン株式会社 + 身体運動文化研究室
『「多摩六都科学館運営委員会』 多摩六都科学館 + 視覚伝達デザイン学科	『「NPO法人景観デザイン支援機構(TDA)』 景観行政団体となっている県市等 + 基礎デザイン学科	『「毎日骨太リサイクルアクション』 株式会社電通 + 株式会社雪印メグミルク + 芸術文化学科	『「カワウンに会いに行く・動物園と野生』 埼玉県こども動物自然公園 + デザイン情報学科
『「東京2020に向けた市民ミーティングin 小平』 小平市地域振興部文化スポーツ課 + 視覚伝達デザイン学科	『「国土交通省景観・道路付属物のデザイン検討委員会』 国土交通省 + 基礎デザイン学科	『「毎日骨太リサイクルアクション』 株式会社電通 + 株式会社雪印メグミルク + 芸術文化学科	

◎ 他大学との連携

充実した学術研究環境を形成するために、本学では国外の大学や様々な機関との交流・提携を積極的に推進しています。国内の大学では、早稲田大学との学術交流や、多摩アカデミックコンソーシアム(TAC)に参画し、図書館の相互利用や単位互換制度などが実現しています。また、東京工業大学との教育研究交流、美術系大学連絡協議会、小平市大学連携協議会(愛称・こだいらブルーベリーリーグ)との連携協定等も結んでいます。2017年4月には電気通信大学と、9月には津田塾大学との連携・協力の推進を図るため、包括連携協定を締結しました。

早稲田大学との学生交流制度

早稲田大学と教員・学生の交流、共同研究の実施、図書館の相互利用などを含む学術交流に関する協定を締結し、2001年度から学生交流を行っています。学部2年生以上を対象とした特別聴講学生の制度では、早稲田大学が提供する科目を選択履修でき、修得した単位は本学の単位として、卒業所要単位数に算入することができます。

◎ 公開講座

公開講座「イノベーションとアート&デザインの可能性」は、武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジで2017年より行われている情報発信型の講座です。異なる分野で活躍するフロントランナーを招いて、これからの新しい美大の可能性をテーマに展開しています。



2017年度公開講座実績

2017年9月22日(金) 講師：濱口秀司氏(monogoto CEO, Ziba Executive Fellow)  
2018年2月23日(金) 講師：山口周氏(コーン・フェリー・ヘイグループ株式会社 シニア・クライアント・パートナー)

◎ 地域フォーラム

地域フォーラム「アート&デザイン」は、武蔵野美術大学のエクステンション活動の一環として、地域社会へ文化的メッセージを発信し、地方との結びつきを模索するという目的で、武蔵野美術大学と同校友会の共催により全国各地で開催しています。

第23回武蔵野美術大学地域フォーラム

「アート&デザイン2017神奈川」—港町横浜に吹くアートの風—

2017年6月22日(木)～6月26日(月)

多摩アカデミックコンソーシアム

多摩アカデミックコンソーシアム(Tama Academic Consortium = TAC)は、多摩地区にキャンパスをもつ国際基督教大学(ICU)、国立音楽大学、東京経済大学、東京外国語大学、津田塾大学と本学の6大学による大学協力機構です。加盟大学間の単位互換制度や図書館の相互利用、教職員・学生の交流など、多彩な活動を展開しています。

◎ 美術・デザインの普及・振興

美術・デザインの普及・振興を目的として、本学では多彩な取り組みを行っています。「旅するムサビプロジェクト」をはじめ、美術・デザインを学びたい高校生に、大学の教育研究について広く知っていただくための活動にも取り組んでいます。



「旅するムサビプロジェクト」(通称:旅ムサ)は、本学の学生が主体となって全国の小中学校を訪れ、「対話型鑑賞」「ワークショップ」「公開制作」そして、中学校を美術館に変える「ムサビる!」の四つの企画を中心に美術教育活動を展開する取り組みです。2017年には10年以上続く実績が評価され「2017年度グッドデザイン賞」を受賞しました。

第一部【展示&ワークショップ】—アートの心を次世代に伝える—

会場：YCCヨコハマ創造都市センター3F イベントスペース

第二部【講演】—港町横浜に吹くアートの風—

会場：横浜市開港記念会館講堂

講師：猿渡紀代子(大佛次郎記念館 特任研究員)、宮崎和之(アンデパンダン展実行委員長)、平山健雄(スタンドグラス横浜マイスター)

◎ 課外講座

美術・デザインの専門大学としての特性を生かした自由なテーマで、国内外のアーティストやデザイナー、研究者を招いた課外講座を随時開催しています。講演、対談、シンポジウム、ライブなど形式は多彩で、訪問教授の講演や毎年恒例となったシリーズも開講されています。これらの講座は、学科を越えて広く学内に公開されています。

2017年度 課外講座一覧

『物々交換所の必要性。学内のゴミ問題を考える』  
講師：酒井貴史(現代アーティスト)

『シリア内戦と難民、難民と結婚すること』  
講師：小松由佳(フォトジャーナリスト、登山家)

『撮影監督という仕事 海外フリーランス』  
講師：浦田秀穂(撮影監督)

『If there is a catastrophe, do the opposite. 制作について』  
講師：毛利悠子(美術家)

『インフォメーション・エクスペリエンス・デザインとは? —Royal College of Artにおける実験的デザイン研究から—』  
講師：ケビン・ワーカー(ロイヤル・カレッジ・オブ・アート インフォメーションエクスペリエンスデザインプログラム主任教授)

『《原爆の図》という絵画実験』  
講師：岡村幸直(原爆の図丸木美術館学芸員)

『Instigator spinout edition #002』  
講師：山口一郎(サカナクション)

『人工知能の現在とこれから』  
講師：松田雄馬(合同会社アイキューベーター代表、人工知能研究者)

『ニューヨーク近代美術館の今』  
講師：Roger Griffith(ニューヨーク近代美術館(MoMA)修復家)

『子どもがいる美術館—子どもの育ちと造形美術—』  
講師：ミッ山一志(横浜市民ギャラリー主任エデュケーター)

『都美術館のキュレーション』  
講師：河合晴生(東京都美術館元学芸員)

『「ミニ地球」に暮らし、持続可能なヒトの暮らしを想う』  
講師：篠原正典(帝京科学大学准教授(動物行動学))

『An Artist's journey across the Silk Route /シルクロードを横切るある画家の遍歴』  
講師：Poushali Das(招聘研究員)

『Place and time』  
講師：Curtis Hidemasa Arima(金属工芸作家)

『地域と共生するデザイン』  
講師：岩佐十良(株式会社自由人代表取締役)

『ノートテイカー養成講座』  
講師：三宅初穂(東京手話通訳等派遣センター要約筆記者)

『メキシコ現代美術について 対談「竹田鎮三郎×仲野泰生」』

講師：竹田鎮三郎(画家)、仲野泰生(京都場アートディレクター、元川崎市岡本太郎美術館学芸員)

『MUSICAL INSTRUMENT & DESIGN —楽器とデザイナー—』  
講師：川田学(プロダクトデザイナー、ヤマハデザイン研究所所長)

『1960年代のアートの市場独占主義と反逆者：草間彌生とグローバル化する美術市場』  
講師：山本みどり(ニューヨーク近代美術館講師)

『「まだら」から「マンダラ」へ…①まだら・摩阿まか不思議界!』  
講師：杉浦康平(グラフィックデザイナー)

『PCによるノートテイク講座』  
講師：宇都野康子(筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター員)

『書と現代アート』  
講師：落微(アーティスト、書道家、本学客員教授)

『INSTIGATOR#018』  
講師：猪子寿之(チームラボ代表)

『国際協力とデザイン フィリピンでのプロジェクトを通して』  
講師：出口麻紀子(元青年海外協力隊員)

『スポーツライフスタイルブランド PUMAの歩みとミッション』  
講師：土田祐三(プーマジャパンゴルフ事業部長)、梅宮研二(プーマジャパンゴルフ事業部マネージャー)

『安全保障、原発、移民・外国人労働者、戦後処理に関する対論』  
講師：鈴木邦夫(新右翼一水会元顧問)、山本太郎(参議院議員)

『New Ingredients in Architecture —テクノロジーが先導する建築とその可能性とは—』  
講師：アンフ カーン(建築家)

『美大生のための著作権入門—デジタル環境で創作していくために必要なこと—』  
講師：水野祐(弁護士)

『火星移住計画から地球永住計画へ』  
講師：相沢詔男(本学名誉教授、民俗学者、建築家)

『「キャプション」のコンセプトについて』  
講師：上崎千(東京藝術大学、上智大学、横浜国立大学芸術学非常勤講師)、石川卓磨、森田浩彰(本学油絵学科講師)

『無形文化財「阿波の木偶まわし」がやって来る』  
講師：辻本一英(芝原生活文化研究所代表)、中内正子(阿波木偶箱まわし保存会会長)、南公代(阿波木偶箱まわし保存会副会長)

『装こう文化財の劣化損傷』  
講師：半田昌規(株式会社半田九清堂代表取締役、国宝修理装こう師連盟理事)

『私の彫刻表現について』  
講師：舟越桂(彫刻家)

『「素材と身体性」〜ガラスを触ってきて思うこと〜』  
講師：神代良明(ガラス作家)

『音楽の建築 ウロボロス・エンジン搭載のピタゴラス主義』  
講師：日詰明男(造形作家、本学基礎デザイン学科特別講師)

『1970年代以後の木彫による表現とその展開について』  
講師：小清水漸(美術家)

『私たちが食べている食肉は誰がどのように屠っているのか』  
講師：栃木裕(全芝浦屠場労組委員長)、宮崎勇気(芝浦屠場職人)

『地球永住計画 連続講座「人類の造形のはじまり。ラスコーとショーヴェの洞窟壁画」』  
講師：五十嵐ジャンヌ(東京藝術大学大学院講師)

『カラフルなスカルミ』  
講師：森千裕(美術家)

『「まだら」から「マンダラ」へ…②まだら・両性具有から両界マンダラへ!』  
講師：杉浦康平(グラフィックデザイナー)

『INSTIGATOR#019』  
講師：是枝裕和(映画監督、テレビディレクター)

『ドキュメンタリー映画「土徳〜焼跡地に生かされて」上映会』  
講師：青原さとし(ドキュメンタリー映画監督)

『「WORK IN PROGRESS」』  
講師：Georg Baldele(プロダクトデザイナー)

『左官 挟土秀平 自然の土で、「現象」を作品にする』  
講師：挟土秀平(左官技能士)

『デザインを仕事にする』  
講師：三澤遥(デザイナー、株式会社日本デザインセンター三澤デザイン研究室)

『もっと詩を!ヨーロッパの音響詩、視覚詩、行為詩などの実験詩の豊かな試みを知る。』  
講師：バルトロメ・フェランド(パフォーマンス・アーティスト、音響・視覚詩人)

『旧石器時代の小平のくらし』  
講師：林徹(国際基督教大学講師)

『グローバル時代のコミュニケーションを問う—映画「ピンク・スバル」上映会』  
講師：小川和也(映像ディレクター、映画監督)

『ドキュメンタリー映画「さよにきたらええやん」特別上映会+ポストトーク』  
講師：重江良樹(映画監督・撮影)、大澤一生(プロデューサー・構成)

『「ミリキタニの猫〈特別篇〉」の上映とプロデューサーのマサ・ヨシカワ氏による解説』  
講師：マサ・ヨシカワ(プロデューサー)

『1960〜70年代のイタリアと日本のデザイン「インテリアデザインの萌芽、“デザイン”を確信した時代』』  
講師：川上元美(デザイナー)、鈴木紀慶(編集者、本学講師)

『医学を越える美術』  
講師：横山雅之(美術家)

『コンサート「チェンバロが奏でるバロックの情景」』  
講師：大塚直哉(チェンバロ)、市瀬陽子(バロック・ダンス)

『ジュエリーを通して考えてきたこと』  
講師：園部悦子(ジュエリー作家)

『「サウンド・エンカウンターとは何か?」音と映像の作家、多田正美にきく』  
講師：多田正美(映像作家、音楽家)

『自然の話が聴こえた—玉川上水の生きもの調べ—』  
講師：高槻成紀(麻布大学いきもの博物館上級研究員(保全生態学))

◎ 学生生活サポート

学生たちが日々の生活における不安を感じることなく、安心して学生生活を送れるように、こころのケアや健康相談、住まい探しなど、様々な支援を行っています。

学生相談室

学生相談室では、学生生活を送る中で出てくる様々な不安や悩み、困っていることを聞き、解決のためのサポートをしています。授業、進路・就職、友人・家族関係、心やからだに関する悩みや、性についての悩みやトラブル、人生や性格のこと、災害時のこころのケアなどの幅広い相談に、臨床心理士、精神科医、教員相談員が対応しています。

住居サポート

「株式会社共立メンテナンス」に業務委託し、学生が大学周辺で安心して暮らせるアパートや推薦寮の紹介を行っています。また、2014年4月より、本学学生のみが利用できる専用学生寮を開設しました(管理・運営：株式会社共立メンテナンス)。朝・夕2食付で、寮長・寮母が常駐する寮内にはアトリエールを完備し、学びに集中できる環境を用意しています(学生寮は留学生と女子学生専用です)。

アルバイトの紹介

(財)学生サポートセンターが指導する(株)ナジック・アイ・サポートの求人情報提供サイト「学生アルバイト情報ネットワーク」を活用して、本学学生に向けたアルバイトの紹介を行っています。

保健室

校医や相談医が、通学・下校時や正課中のケガの応急処置や健康相談、大学周辺の医療機関案内などに対応しています。また、定期健康診断の実施や健康診断証明書の発行、学校で予防すべき感染症や、熱中症、インフルエンザ、食中毒、ノロウイルス、麻しんについての予防法・対処法なども紹介しています。

ハラスメントの防止

本学の学生、教職員は、教育・研究・学修・就労するにあたって、等しく良好な環境を享受する資格をもち、性・年齢・出身地の違いなどにより、不利益をこうむることがあってはなりません。本学では、個人の尊厳を傷つけるハラスメントを防止し、被害が生じた場合の公正な救済を保障することで、適正な教育・研究・学修・就労環境の実現に積極的に取り組んでいます。

留学生サポート

外国人留学生が充実した学生生活を送れるよう、留学生生活や在留についての相談の受け付けや、医療機関をはじめとする各種機関の案内など、きめ細やかなサポートを行っています。

障害者学修支援

本学は、障害を理由とする差別の解消を目的に、障害のある学生(保証人含む)からの要望により、個々の学生の状態・特性等に応じて、適切な支援を提供する取り組みを行っています。

共通の支援内容*	<ul style="list-style-type: none"> <li>○窓口における支援 . . . . . 文章による説明、筆談、書類代筆</li> <li>○授業及び講座、研修における支援 . . . . . 最前列確保、授業開始時間の遅れ配慮(移動時間) 休講情報のメール配信</li> <li>○担当教員・講演者への支援事項の伝達、協力要請 . . . 支援による部外者の同席、補聴システムの使用</li> </ul>
聴力障害*	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業における支援 . . . . . ノートテイク配置、休講情報のメール配信</li> </ul>
肢体不自由*	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業、講演、研修教室の支援 . . . . . 車椅子移動可能教室への変更、移動への補助支援</li> </ul>
精神障害・発達障害・その他障害、入学試験関連の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○別途相談</li> </ul>

\*上記以外の支援を希望する場合は別途相談。

1967年に「美術資料図書館」として開館した「武蔵野美術大学 美術館・図書館」は、大学美術館と大学図書館としての二つの大きな機能を持ちながら、さらに民俗資料室とイメージライブラリーを有する「美と知」を統合したキャンパスのシンボルです。美術館、図書館、博物館機能が一体化した「知の複合施設」として、図書資料、美術・デザイン作品、民俗資料、映像資料など、それぞれ属性や扱いの異なる様々な資料群を有機的に結びつけて横断的に活用することができます。



美術館活動

美術やデザイン、工芸品などの収集・保存、データベースの構築、展覧会の企画・開催、図録の編集・発行などを行っています。特に、約3万点におよぶポスターと約400脚の近代椅子は、デザイン研究の基礎資料として、社会的にも大きな意義を持つコレクションです。また、展覧会の企画には本学教員も参加しており、実践的な学習の場として学生も積極的に参加するなど、大学美術館ならではの体制が整っています。会期中には講演、シンポジウム、アーティストトークなど、様々なイベントを開催しています。

図書館活動

美術・デザインを中心に約31万冊の図書資料、約5,000タイトルの和・洋雑誌、各大学の研究紀要、展覧会カタログ、映像資料などを収集・保管しています。特に、5,000冊を超える絵本コレクションや、近代デザイン研究のためのグラフィックデザインコレクションは、学術的な研究資料として内外の注目を集めています。ICT技術を活用したブックタッチや無線LANを導入した学習空間を整備し、多摩アカデミックコンソーシアムという大学協力機構を活用することで、近隣の6大学の図書館を自由に利用できます。



イメージライブラリーの活動

美術館棟の2階にあるイメージライブラリーは、図書館のセクションとして、約2万点の映像資料を所蔵し、映像表現の研究の場として一翼を担っています。映画、ドキュメンタリー、アニメーション、実験映像などの作品をキーワード検索できる独自のシステムも稼働し、映像講座の開催や情報誌の発行も行っています。



民俗資料室の活動

13号館にある民俗資料室は、様々な民具(生活道具)の収集・保存・公開を行っています。民俗学者・宮本常一を中心とした生活文化研究会による資料をはじめ、日本観光文化研究所の寄贈資料や、写真家・園部澄氏による郷土玩具のコレクションも貴重な資料です。これらは同ギャラリーにて順次、展示・公開しています。



造形研究センターの活動

文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の採択を得て、2008年に設置された造形研究センターは、専門領域と学科の枠を超えた横断的かつ先進的な研究を行う全学共同の研究施設です。美術館・図書館が所蔵する図書資料及び美術・デザイン資料の保存活用・公開のためのデータベース構築を進めています。



### 鷹の台キャンパス

東京の郊外、玉川上水が流れる小平・鷹の台に大学のメインキャンパスがあります。文化勲章を受章した建築家・故芦原義信名誉教授のマスタープランのもとに設計・建設され、1961年に開設されました。約11万㎡の敷地に、法人本部・造形学部・大学院が置かれています。

〒187-8505 東京都小平市小川町 1-736



### 市ヶ谷キャンパス(2019年4月開設)

複数の路線が乗り入れる「市ヶ谷」駅より徒歩3分と、アクセスに恵まれた好立地の都心キャンパスを開設します。造形構想学部クリエイティブイノベーション学科の3・4年次生、大学院造形構想研究科造形構想専攻クリエイティブリーダーシップコースの教育研究の拠点となります。

〒162-0843 東京都新宿区市谷田町 1-4



### 吉祥寺校

吉祥寺校は、1929年帝国美術学校として創設された本学発祥の地であり、東京都武蔵野市に位置しています。本学の造形を中心とする大きな教育ネットワークの一翼を担っている武蔵野美術学園と通信教育グループ、校友会事務局、また、武蔵野美術大学出版局が置かれています。

〒180-8566 東京都武蔵野市吉祥寺東町 3-3-7



### 三鷹ルーム

JR中央線・総武線「三鷹」駅より徒歩4分の好立地にある三鷹ルームは、通信教育課程週末スクーリングの「三鷹教室」として、また大学や各学科主催による展示発表、公開講座、インフォメーションなど、ムサビと社会を結ぶ窓口として機能しています。

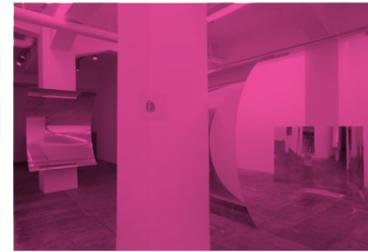
〒180-0006 東京都武蔵野市中町 1-19-3  
武蔵野YSビル6F



### 武蔵野美術学園

実技中心の美術教育の場、生涯学習の場として1969年に設立されました。高等学校卒業もしくは同等の学力であれば、美術を基礎から学ぶことができます。専攻は、絵画・彫刻・日本画・版画・イラストレーション・グラフィックデザインの六つで、基礎・専門・研究課程を設けています。

〒180-8566 東京都武蔵野市吉祥寺東町 3-3-7



### gallery αM

1988年、武蔵野市吉祥寺に「ギャラリーαM」を開設以来、現代美術における新人発掘と、その発表の場を提供してきました。2009年4月からは、ジャンルを問わず質の高い表現と可能性を有するアーティストに作品発表の機会を提供すること、社会に斬新な価値を発信できるキュレーターに展示企画の場を提供することを目的として、東京・馬喰町にノンプロフィットギャラリー「gallery αM」を開設しました。都市の恒常的空間に、発表とキュレーションのダイナミックな関係を創出します。



### デザイン・ラウンジ

2012年4月、東京ミッドタウン・デザインハブ内に、デザインを基軸とした情報発信拠点として開設されました。「ラウンジ」とは、社交室・休憩室や待合室を指す言葉ですが、「武蔵野美術大学が社会と社交する場・談話する場」という「集う」イメージと「デザインハブから社会へ出発(発信)する場」という「起点」のイメージをコンセプトとしています。公開講座や展示、企業・団体と連携した研究会やイベントを企画・実施し、これからのデザインやデザイン教育について議論しながら美術大学の社会貢献力を強め、社会と大学とが新しいかたちで繋がる環境を創出しています。



### 奈良寮

奈良県奈良市にある「奈良寮」は、学生、教職員、校友が広く利用できる福利厚生施設です。貴重な文化遺産が多く残る京都・奈良への研究旅行の拠点として、奈良市内の、正倉院にほど近い絶好の場所にあります。この建物は、日本美術院に所属し、国宝や重要文化財の修復に大きな功績を残した故新納忠之介氏の旧宅で、この地方に独特な大和棟高塀造の民家です。本学では、その本来の美しい姿をとどめながら、快適に宿泊・滞在できるよう、保存と活用を両立した改修復元を行っています。



### 五箇山「無名舎」

富山県南砺市にある「無名舎」は、本学有志を中心とした民芸研究グループ「無名会」から寄贈された合掌造りの民家を、研究と保養のための施設として改修した福利厚生施設です。越中五箇山の大自然とその風土に培われた合掌造りの民家は、1996年、岐阜県白川郷とともに世界文化遺産にも加えられました。また近年には、平家の落人の伝統を引き、和紙の産地としても知られる地元、旧平村地区との交流も行われています。



### 武蔵野美術大学出版局

吉祥寺校に設置されている武蔵野美術大学出版局は、ユニバーシティ・プレスとして、大学の教育・研究を支援し、大学と社会を結ぶ機関として、学術文化に関わる広範囲な出版活動を展開しています。特に通信教育課程の教科書群は、美術やデザインへの知的・技術的欲求に応えるテキストとして、広く一般に向けて刊行されています。2004年には「MAU ライブラリー」を創刊し、特色ある書籍を刊行しています。また近年では、大学のグッズ「MAU グッズ」シリーズの製作・販売も手がけています。



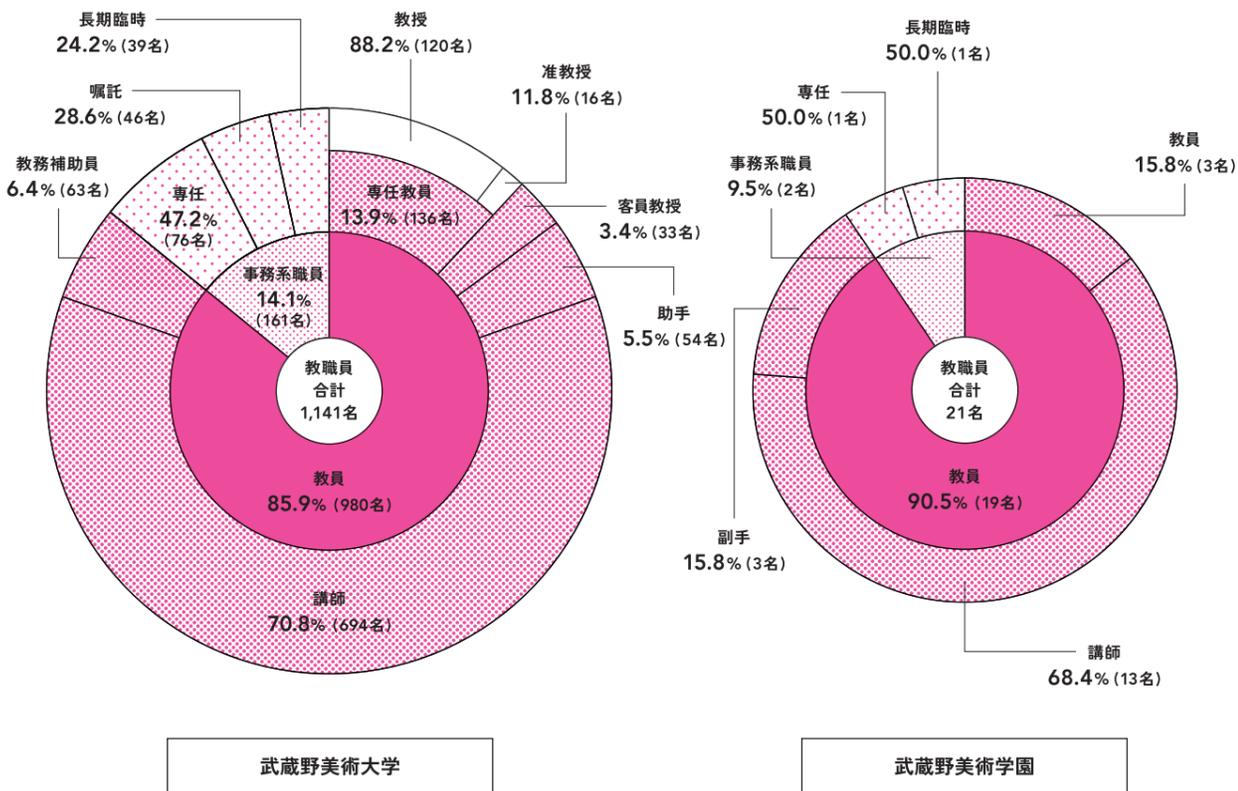
### 武蔵野美術大学校友会

武蔵野美術大学校友会は、武蔵野美術大学を卒業(修了)した卒業生全員が参加・運営する組織です。卒業または修了と同時に、全員が会員となります。当会は会員相互の親睦、母校への寄与、後輩への支援、社会への貢献を軸に活動しています。

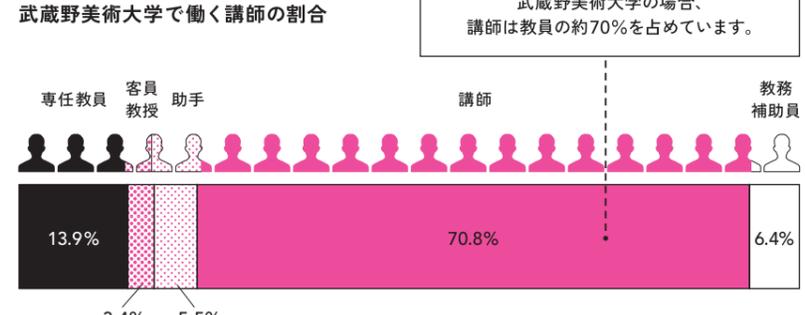
◎ 教職員数 (2017年5月1日現在)

本学で美術・デザインを指導する専任教員の多くが、第一線のアーティスト、デザイナーとして活躍中であり、一般教育などでも様々なジャンルで活躍を続ける研究者を専任教員として採用しています。美術、デザインといった専門分野以外の教員の多くを専任教員として積極的に採用しているのは、美術系大学の中での本学の特徴のひとつです。また、教育研究の発展を推し進めるため、客員教授の拡充も図っています。

武蔵野美術大学、武蔵野美術学園で働く教職員とその内訳



多様化・専門化する美術、デザインの現場において、専任教員がカバーしきれないようなジャンルを補うためにも、講師を数多く配置しているのが本学の特徴です。講師は他大学等に本務がある者や、講師を専業とする者だけでなく、幅広く社会で活躍しているアーティストやデザイナー等の専門家にも指導を依頼しています。



◎ 教員一覧 (2018年3月31日現在)

- |  |   |  |   |  |  |  |  |  |
|--|---|--|---|--|--|--|--|--|
| <p><b>日本画学科</b><br/>◎教授(主任)<br/>内田あぐり</p> <p>◎教授<br/>尾長良範<br/>西田俊英<br/>山本直彰</p> <p>◎准教授<br/>岩田壮平</p> <p>◎客員教授<br/>北澤憲昭<br/>栗林隆<br/>土屋禮一</p> <p>◎講師<br/>荒井経<br/>今村有策<br/>熊澤未来子<br/>酒井祐二<br/>阪本トクロウ<br/>松谷千夏子<br/>吉田有紀</p> <p><b>油絵学科</b><br/>◎教授(主任)<br/>水上泰財</p> <p>◎教授<br/>赤塚祐二<br/>遠藤彰子<br/>遠藤竜太<br/>榎山祐和<br/>川口起美雄<br/>小林孝亘<br/>高浜利也<br/>長沢秀之<br/>神田京太郎<br/>丸山直文</p> <p>◎准教授<br/>元田久治</p> <p>◎客員教授<br/>磯見輝夫<br/>木下晋<br/>土方明司<br/>町田久美</p> <p>◎講師<br/>[油絵専攻]<br/>石川卓磨<br/>岩熊力也<br/>小尾修<br/>柿沼宏樹<br/>小林耕平<br/>坂口竜太<br/>佐藤万絵子<br/>Jaime Humphreys<br/>清水美帆<br/>杉浦藍<br/>醍醐イサム<br/>竹内一<br/>玉虫良次<br/>豊嶋康子<br/>中崎透<br/>保坂毅<br/>細川貴司<br/>増田常徳<br/>箕輪亜希子<br/>森田浩彰<br/>山本晶<br/>吉岡正人</p> <p>[版画専攻]<br/>石橋祐一郎<br/>大坂秩加<br/>鹿野健<br/>武田律子<br/>常田泰由<br/>豊泉綾乃<br/>森田奏美<br/>結城泰介</p> | <p><b>彫刻学科</b><br/>◎教授(主任)<br/>黒川弘毅</p> <p>◎教授<br/>伊藤誠<br/>戸谷成雄<br/>三沢厚彦</p> <p>◎客員教授<br/>岡崎乾二郎<br/>高柳恵里</p> <p>◎講師<br/>アズビー・ブラウン<br/>牛島達治<br/>窪田美樹<br/>桑名紗衣子<br/>富井大裕<br/>西尾康之<br/>細井篤<br/>丸山富之<br/>米原昌郎</p> <p><b>視覚伝達デザイン学科</b><br/>◎教授(主任)<br/>寺山祐策</p> <p>◎教授<br/>新島美<br/>キュー・ジュリヤ<br/>齋藤啓子<br/>白井敬尚<br/>陣内利博<br/>西本企良<br/>古堅真彦<br/>本田和男</p> <p>◎准教授<br/>石塚英樹</p> <p>◎客員教授<br/>荒保宏<br/>中島信也<br/>森本千絵</p> <p>◎講師<br/>浅井治彦<br/>李ナレ<br/>石井雄一郎<br/>石垣貴子<br/>小峰貴芳<br/>辻琢磨<br/>寺田尚樹<br/>周防絵美子<br/>長岡勉<br/>鈴木健<br/>鈴木元<br/>鈴木伊美<br/>祖俣友香子<br/>高橋勇一郎<br/>田代真<br/>田中啓一<br/>近岡令<br/>富樫葉子<br/>西村拓紀<br/>根本隆一<br/>萩原千春<br/>藤井常雄<br/>藤原敬介<br/>丸岡勇太<br/>宗像重幸<br/>澤田耕一<br/>杉下城司<br/>杉本浩<br/>鈴木功<br/>鈴木基真<br/>ダイノサトウ<br/>滝川修志<br/>榎橋早苗<br/>谷田幸<br/>塚本純久<br/>飛山裕幸<br/>中野豪雄</p> | <p>中村成一<br/>西尾彩<br/>長谷川教士<br/>花崎暲<br/>樋澤明<br/>北條みぎわ<br/>堀口裕美<br/>本庄美千代<br/>丸山幸夫<br/>武藤努<br/>室賀清徳<br/>森田健一<br/>柳下祐介<br/>山口弘毅<br/>山本太郎<br/>横山宏<br/>吉川義盛<br/>吉田謙二</p> <p><b>工芸工業デザイン学科</b><br/>◎教授(主任)<br/>十時啓悦</p> <p>◎教授<br/>伊藤真一<br/>稲田真一<br/>大村俊二<br/>鈴木洋<br/>田中桂太<br/>中原俊三郎<br/>西川聡</p> <p>◎准教授<br/>鈴木純子<br/>山中一宏</p> <p>◎客員教授<br/>志村美治<br/>樋田豊郎</p> <p>◎講師<br/>磯谷慶子<br/>岩田綾<br/>内山純<br/>榎本倫願<br/>岡本玲子<br/>小倉良介<br/>鬼東恵司<br/>片平隆行<br/>北川八十治<br/>熊谷幸治<br/>倉本仁<br/>小峰貴芳<br/>辻琢磨<br/>寺田尚樹<br/>遠山正道<br/>長岡勉<br/>中川淳<br/>長峰麻貴<br/>根本育洋<br/>能美健志<br/>橋本徹也<br/>服部基<br/>濱西恵子<br/>早川誠也<br/>原田麻子<br/>樋口藍<br/>樋口吉徳<br/>藤森泰司<br/>古川巴代子<br/>穂谷友子<br/>宮澤謙一<br/>山口宏子<br/>山下裕子<br/>山本侑樹<br/>横川正紀<br/>吉田真実<br/>和田喜夫</p> <p><b>空間演出デザイン学科</b><br/>◎教授(主任)<br/>小泉誠</p> <p>◎教授<br/>天野勝<br/>五十嵐久枝</p> | <p>池田ともゆき<br/>太田雅公<br/>片山正通<br/>小竹信節<br/>津村耕祐<br/>バトリック・ケビン・ライアン</p> <p>◎准教授<br/>鈴木康広</p> <p>◎客員教授<br/>島次郎<br/>堀尾幸男<br/>面出薫</p> <p>◎講師<br/>秋山光洋<br/>伊坂重春<br/>石黒敦彦<br/>伊藤淑恵<br/>トースティ<br/>内山敬子<br/>逢坂卓郎<br/>大山由美子<br/>小野直紀<br/>角田陽太<br/>上條桂子<br/>亀森一好<br/>川端富生<br/>北川陽史<br/>君塚賢<br/>園時誠<br/>小谷壽一<br/>佐藤昌孝<br/>眞田岳彦<br/>沢田隆一<br/>清水悟<br/>清水早苗<br/>庄野泰子<br/>杉山純<br/>鈴木啓太<br/>鈴木紀慶<br/>鈴木勝<br/>鈴木浩一<br/>代島多枝<br/>高橋晃<br/>武石正宣<br/>立花文穂<br/>谷口勝彦<br/>月岡彩<br/>辻琢磨<br/>寺田尚樹<br/>遠山正道<br/>長岡勉<br/>中川淳<br/>林英理子<br/>彦根アンドレア<br/>藤田修司<br/>細矢仁<br/>増田信吾<br/>松井晃一<br/>三浦清史<br/>水上哲也<br/>三家大地<br/>元木大輔<br/>樋口吉徳<br/>藤森泰司<br/>古川巴代子<br/>穂谷友子<br/>宮澤謙一<br/>山口宏子<br/>山下裕子<br/>山本侑樹<br/>横川正紀<br/>吉田真実<br/>和田喜夫</p> | <p>高橋晶子<br/>長谷川浩己<br/>布施茂<br/>源愛日見</p> <p>◎准教授<br/>菊地宏</p> <p>◎客員教授<br/>アストリッド・クライン<br/>土屋公雄<br/>横河健</p> <p>◎講師<br/>青木弘司<br/>石井秀孝<br/>伊藤寛<br/>伊藤裕久<br/>今村水紀<br/>岩下泰三<br/>上田明宏<br/>大井早苗<br/>大嶋信道<br/>大野暁彦<br/>岡本真理子<br/>興松良昌<br/>奥野公章<br/>小倉康正<br/>笠置秀紀<br/>加藤修<br/>亀山本果<br/>河内孝夫<br/>川口有子<br/>川村政治<br/>岸田省吾<br/>河内一泰<br/>河野有悟<br/>後藤茂<br/>小林敦<br/>小林和夫<br/>小松宏誠<br/>近藤哲雄<br/>齊藤祐子<br/>笠口数<br/>三幣順一<br/>浪江桂子<br/>鈴木賢人<br/>鈴木竜太<br/>砂山太一<br/>高沖哉<br/>田口明美<br/>田原唯也<br/>宮宮晃志<br/>常山未央<br/>戸井田雄<br/>中川純<br/>中村幸悦<br/>林英理子<br/>彦根アンドレア<br/>藤田修司<br/>細矢仁<br/>増田信吾<br/>松井晃一<br/>三浦清史<br/>水上哲也<br/>三家大地<br/>元木大輔<br/>樋口吉徳<br/>藤森泰司<br/>古川巴代子<br/>穂谷友子<br/>宮澤謙一<br/>山口宏子<br/>山下裕子<br/>山本侑樹<br/>横川正紀<br/>吉田真実<br/>和田喜夫</p> | <p>◎客員教授<br/>梅原真<br/>佐藤啓一</p> <p>◎講師<br/>秋山孝子<br/>有馬トモユキ<br/>安斎利洋</p> <p>◎准教授<br/>小口裕史<br/>小野生<br/>小原稔<br/>織咲誠<br/>加藤幸枝<br/>川間哲夫<br/>清川進也<br/>小松知茂<br/>齋藤岳郎<br/>今村水紀<br/>佐藤篤司<br/>沢良子<br/>篠崎晃一<br/>下村純一<br/>白濱力<br/>末廣伸行<br/>杉本雅子<br/>田邊学<br/>玉川博章<br/>中島淳雄<br/>原下謙一<br/>蓮池公威<br/>林浩平<br/>平尾始<br/>平野昌太郎<br/>藤田総宜<br/>松浦寿夫<br/>松野良則<br/>目良敦<br/>森田衣起<br/>諸橋泰樹<br/>安原七重<br/>山添崇<br/>山本太郎<br/>吉田隆<br/>吉永晴彦</p> <p><b>映像学科</b><br/>◎教授(主任)<br/>板屋緑</p> <p>◎客員教授<br/>石茂雄<br/>内館牧子</p> <p>◎講師<br/>青石太郎<br/>浅野優子<br/>飯田鉄<br/>伊藤時男<br/>梅本真<br/>大嶋浩<br/>大田晃<br/>岡田地<br/>岡川純子<br/>小川明日香<br/>小野寺唯<br/>金子隆一<br/>GOTO AKI<br/>小柳淳嗣<br/>星野研史<br/>渡辺真太郎</p> | <p>菅沼比呂志<br/>鈴木厚志<br/>高橋明洋<br/>瀧健太郎<br/>竹中義明<br/>井口博美<br/>中昭史<br/>谷口暁彦<br/>戸塚太郎<br/>新谷尚之<br/>根間太作<br/>野村叔子<br/>橋爪慧<br/>橋本直明<br/>橋本典明<br/>橋本典久<br/>鳥中実<br/>清口幸一<br/>原田浩<br/>藤田純夫<br/>松本夏樹<br/>宮下晃久<br/>元木みゆき<br/>白濱力<br/>末廣伸行<br/>杉本雅子<br/>田邊学<br/>玉川博章<br/>中島淳雄<br/>原下謙一<br/>蓮池公威<br/>林浩平<br/>平尾始<br/>平野昌太郎<br/>藤田総宜<br/>松浦寿夫<br/>松野良則<br/>目良敦<br/>森田衣起<br/>諸橋泰樹<br/>安原七重<br/>山添崇<br/>山本太郎<br/>吉田隆<br/>吉永晴彦</p> <p>◎客員教授<br/>柴田英喜<br/>白田秀彰<br/>新保顕香<br/>末延素<br/>杉下城司<br/>高橋明洋<br/>瀧本往人<br/>田崎和隆<br/>榎橋早苗<br/>伊藤里麻子<br/>梅田亜由美<br/>江崎聡子<br/>岡しげみ<br/>中野希大<br/>仲俣暁生<br/>花光里香<br/>本田晃一<br/>村上干博<br/>村田美樹<br/>山川悟<br/>横田克己<br/>渡辺真太郎</p> <p><b>デザイン情報学科</b><br/>(情報表現)<br/>◎講師<br/>井出はるか<br/>鈴木壮一<br/>西垣由紀子<br/>松川祐子<br/>上田あい<br/>岡田地<br/>千葉慶<br/>塚本文雄<br/>鶴岡明美<br/>木谷篤<br/>小西俊也<br/>照井亮<br/>星野研史<br/>渡辺真太郎</p> <p><b>教養文化・学芸員課程</b><br/>◎教授(主任)<br/>白井史人</p> | <p>◎教授(主任)<br/>今泉洋</p> <p>◎教授<br/>井口博美<br/>佐藤淳一<br/>白石学<br/>長澤忠徳<br/>森山明子</p> <p>◎准教授<br/>井上尚司<br/>高山穠</p> <p>◎客員教授<br/>逢坂卓郎<br/>中島信也<br/>村井純</p> <p>◎講師<br/>赤池学<br/>石浦克<br/>大嶋浩<br/>太田伸志<br/>山崎達基</p> <p><b>芸術文化学科</b><br/>◎教授(主任)<br/>横義明</p> <p>◎教授<br/>是枝開<br/>杉浦幸子<br/>高島直之<br/>新見隆<br/>西中賢<br/>米徳信一</p> <p>◎客員教授<br/>ナガオカケンメイ<br/>林家たい平</p> <p>◎講師<br/>安斎利洋<br/>石黒敦彦<br/>磯達雄<br/>伊藤剛<br/>伊藤里麻子<br/>梅田亜由美<br/>江崎聡子<br/>岡しげみ<br/>中野希大<br/>仲俣暁生<br/>花光里香<br/>本田晃一<br/>村上干博<br/>村田美樹<br/>山川悟<br/>横田克己<br/>渡辺真太郎</p> <p><b>デザイン情報学科</b><br/>(情報表現)<br/>◎講師<br/>井出はるか<br/>鈴木壮一<br/>西垣由紀子<br/>松川祐子<br/>上田あい<br/>岡田地<br/>千葉慶<br/>塚本文雄<br/>鶴岡明美<br/>木谷篤<br/>小西俊也<br/>照井亮<br/>星野研史<br/>渡辺真太郎</p> <p><b>教養文化・学芸員課程</b><br/>◎教授(主任)<br/>白井史人</p> | <p>小幡正敏<br/>神野善治<br/>佐久間保明<br/>志田陽子<br/>関野吉晴<br/>富松保文<br/>園山憲子<br/>廖赤陽</p> <p>◎准教授<br/>荒川步<br/>宮原ひろ子</p> <p>◎講師<br/>井上浩義<br/>伊村智<br/>海野有希<br/>狩野愛<br/>北沢裕<br/>小島智章<br/>小林孝子<br/>鈴木一義<br/>高槻成紀<br/>高橋典子<br/>竹中真也<br/>岡崎章<br/>千葉将希<br/>簡兵<br/>高井亜湖<br/>長倉洋海<br/>蓮池隆広<br/>山田雅<br/>原民樹<br/>東山大毅<br/>藤本俊明<br/>藤原麻優子<br/>真島麗子<br/>山田昌久</p> <p><b>言語文化</b><br/>◎教授(主任)<br/>野口克洋</p> <p>◎教授<br/>藤原優子<br/>藤田尊湖<br/>ポール・カンダサミ</p> <p>◎准教授<br/>小澤智子<br/>三代純平</p> <p>◎講師<br/>相原雅子<br/>青木宏<br/>井上敬<br/>大木理恵子<br/>太田美智子<br/>木下裕太<br/>橋香織<br/>クレイグ・シスマン<br/>近藤ゆう子<br/>佐藤王子<br/>更科加代子<br/>高橋恵<br/>田辺章<br/>長尾主税<br/>中川智規<br/>中村優治<br/>成瀬俊一<br/>濱田美美<br/>森松和子<br/>山田敬子</p> <p>[フランス語]<br/>今村純子<br/>小幡一雄<br/>平野寛堂<br/>堀越洋一郎<br/>松浦昇<br/>森啓輔<br/>結城康太郎</p> |
|--|---|--|---|--|--|--|--|--|

[ドイツ語] 酒井能成 深澤一輝 柳勝己	平野和弘 丸山伸也 宮崎大佑 望月康司 矢田部英正 築田陽子 横森茂樹 吉野由布子 鷺谷浩輔	築地正明 鶴岡明美 戸田昌子 萩原哉 原浩史 福島修 藤井明 松井勝正 松浦寿夫 松崎照明 宮坂直樹 宮崎匠 森美智代	高野正晃 多和圭三 人見崇子 松本隆 箕輪亜希子 諸貫きよ恵 <b>共通デザイン</b> ◎教授(主任) 小井土満	桂理以 川本雅子 北沢昌代 杉山貴洋 高野一 田中千賀子 永岡和雄 鍋島尚子 葉山登 渡辺典子	今村純子 上田卓司 江森敬夫 清水水薫 岡山理香 鬼丸正明 小幡一雄 加藤義夫 金田真滋 亀井好恵 川崎雅裕 川本雅子 楠根圭子 小石絵美 島山豊 三浦定俊 宮本八恵子 山本育夫 呂俊民	[造形総合科目] 足立正 井上智史 植木基博 上田和秀 白井新太郎 生川清孝 太田守重 大竹紀美代 大野彩 大原大次郎 奥村梨枝子 落合勉 河村要 喜井豊治 木多美紀子 木村文敏 小池利佳 小林良一 近藤理恵 貞弘和憲 柴田克哉 高崎葉子 竹中義明 中尾早苗 成田達哉 西川陽子 野崎麻理 野田昇一郎 福井政弘 藤田寿伸 古川巴代子 丸田直美 望月重太郎 守山久子 山内道彦 山本晶 山本篤子 米内則子	加藤健二 金子善明 木村繁之 木村真由美 小森琢己 佐々木敬 清水健太郎 神淵佐子 瀬島匠 東俊行 星晃 松村繁 山本明比古 吉川民仁 和田雄一 渡邊洋	紫牟田伸子 高橋世織 田中洋江 中島智 弘中智子 堀越洋一郎 前多令子 松永康
[中国語] 何旭	<b>造形文化・美学美術史</b> ◎教授(主任) 朴亨園	◎客員教授 潘微	◎講師 (学芸員課程) 安齋順子 塚本純久 島山豊 三浦定俊 宮本八恵子 山本育夫 呂俊民	◎講師 (学芸員課程) 安齋順子 塚本純久 島山豊 三浦定俊 宮本八恵子 山本育夫 呂俊民	◎講師 (学芸員課程) 安齋順子 塚本純久 島山豊 三浦定俊 宮本八恵子 山本育夫 呂俊民	◎講師 (学芸員課程) 安齋順子 塚本純久 島山豊 三浦定俊 宮本八恵子 山本育夫 呂俊民	◎講師 (学芸員課程) 安齋順子 塚本純久 島山豊 三浦定俊 宮本八恵子 山本育夫 呂俊民	[デザイン情報学科] 朝比奈ゆり 石垣貴子 氏家真清 小西俊也 角めぐみ 榎橋早苗 深澤涼子 松川剛之 宮林裕二郎 齋内新太 山口弘毅 山田興生
[韓国語] チョン・ホン 中川正臣	◎教授 北澤洋子 篠塚千恵子 田中正之 玉島敏子 松葉一清	<b>共通絵画</b> ◎教授(主任) 大浦一志	◎講師 萩野琢 榎本倫願 角文平 川口光一 小松弘道 神藤修 俣俣友香子 竹田精一郎 田中行彦 谷浩二 内藤衛 中川岳二 林宏 藤井常雄 藤田恵美 藤原啓克 松田崇 水田徹 宗像重幸 湯村光	◎講師 萩野琢 榎本倫願 角文平 川口光一 小松弘道 神藤修 俣俣友香子 竹田精一郎 田中行彦 谷浩二 内藤衛 中川岳二 林宏 藤井常雄 藤田恵美 藤原啓克 松田崇 水田徹 宗像重幸 湯村光	◎講師 萩野琢 榎本倫願 角文平 川口光一 小松弘道 神藤修 俣俣友香子 竹田精一郎 田中行彦 谷浩二 内藤衛 中川岳二 林宏 藤井常雄 藤田恵美 藤原啓克 松田崇 水田徹 宗像重幸 湯村光	◎講師 萩野琢 榎本倫願 角文平 川口光一 小松弘道 神藤修 俣俣友香子 竹田精一郎 田中行彦 谷浩二 内藤衛 中川岳二 林宏 藤井常雄 藤田恵美 藤原啓克 松田崇 水田徹 宗像重幸 湯村光	◎講師 萩野琢 榎本倫願 角文平 川口光一 小松弘道 神藤修 俣俣友香子 竹田精一郎 田中行彦 谷浩二 内藤衛 中川岳二 林宏 藤井常雄 藤田恵美 藤原啓克 松田崇 水田徹 宗像重幸 湯村光	[工芸工業デザイン学 科] 伊坂重春 大辻久敏 官浪辰夫 車田幸道 桜井隆樹 杉本孝夫 高橋勇一郎 谷浩二 富谷智 中島良弘 萩野美有紀 萩原千春 福田弘 山本博一 渡辺泉
[日本語] 佐藤正則 福村真紀子 古屋憲章	◎准教授 木田拓也	◎講師 一色映理子 伊藤史 今井俊介 加藤健二 上菜寛 神淵佐子 二宮陽香 結城康太郎 渡辺えつこ	◎講師 一色映理子 伊藤史 今井俊介 加藤健二 上菜寛 神淵佐子 二宮陽香 結城康太郎 渡辺えつこ	◎講師 一色映理子 伊藤史 今井俊介 加藤健二 上菜寛 神淵佐子 二宮陽香 結城康太郎 渡辺えつこ	◎講師 一色映理子 伊藤史 今井俊介 加藤健二 上菜寛 神淵佐子 二宮陽香 結城康太郎 渡辺えつこ	◎講師 一色映理子 伊藤史 今井俊介 加藤健二 上菜寛 神淵佐子 二宮陽香 結城康太郎 渡辺えつこ	◎講師 一色映理子 伊藤史 今井俊介 加藤健二 上菜寛 神淵佐子 二宮陽香 結城康太郎 渡辺えつこ	[教職科目] 北沢昌代 栗田るみ子 森田直子 小林道夫 大間敏行 田中千賀子 中尾美月 橋本萌 葉山登 松本敏裕 山口正己 渡辺典子
[スペイン語] 田中マルタ	◎客員教授 榊山結一 松原茂 明珍素也	◎講師 井口壽乃 猪熊兼樹 海老澤模奈人 角山朋子 北澤憲昭 楠根圭子 櫻庭美咲 下野玲子 鈴木希帆 平晃子 高橋幸次 高橋真作 瀬井直子 田中知佐子 塚本庸充	◎講師 井口壽乃 猪熊兼樹 海老澤模奈人 角山朋子 北澤憲昭 楠根圭子 櫻庭美咲 下野玲子 鈴木希帆 平晃子 高橋幸次 高橋真作 瀬井直子 田中知佐子 塚本庸充	◎講師 井口壽乃 猪熊兼樹 海老澤模奈人 角山朋子 北澤憲昭 楠根圭子 櫻庭美咲 下野玲子 鈴木希帆 平晃子 高橋幸次 高橋真作 瀬井直子 田中知佐子 塚本庸充	◎講師 井口壽乃 猪熊兼樹 海老澤模奈人 角山朋子 北澤憲昭 楠根圭子 櫻庭美咲 下野玲子 鈴木希帆 平晃子 高橋幸次 高橋真作 瀬井直子 田中知佐子 塚本庸充	◎講師 井口壽乃 猪熊兼樹 海老澤模奈人 角山朋子 北澤憲昭 楠根圭子 櫻庭美咲 下野玲子 鈴木希帆 平晃子 高橋幸次 高橋真作 瀬井直子 田中知佐子 塚本庸充	◎講師 井口壽乃 猪熊兼樹 海老澤模奈人 角山朋子 北澤憲昭 楠根圭子 櫻庭美咲 下野玲子 鈴木希帆 平晃子 高橋幸次 高橋真作 瀬井直子 田中知佐子 塚本庸充	[芸術文化学科] 足立圭 榎本寿紀 岡しげみ 岡川純子 嘉藤美子 河原啓子 神庭信幸 小金沢智 坂上桂子
<b>身体運動文化</b> ◎教授(主任) 青沼裕之	◎准教授 北徹朗	◎講師 萩山幸子 鬼丸正明 越部清美 里見悦郎 白井巧 高橋宗良 難波秀行 早川みどり ハラルド・ボルスター	◎講師 萩山幸子 鬼丸正明 越部清美 里見悦郎 白井巧 高橋宗良 難波秀行 早川みどり ハラルド・ボルスター	◎講師 萩山幸子 鬼丸正明 越部清美 里見悦郎 白井巧 高橋宗良 難波秀行 早川みどり ハラルド・ボルスター	◎講師 萩山幸子 鬼丸正明 越部清美 里見悦郎 白井巧 高橋宗良 難波秀行 早川みどり ハラルド・ボルスター	◎講師 萩山幸子 鬼丸正明 越部清美 里見悦郎 白井巧 高橋宗良 難波秀行 早川みどり ハラルド・ボルスター	◎講師 萩山幸子 鬼丸正明 越部清美 里見悦郎 白井巧 高橋宗良 難波秀行 早川みどり ハラルド・ボルスター	[油絵学科] 阿部英幸 伊藤仁 今井庸介 大家泰仁

ANNUAL REPORT

事業の概要

◎ 法人役員・大学役職等 (2018年3月31日現在)

<b>法人役員</b> ◎理事長 天坊昭彦	上野敬子 増古憲一 井上穂子 中島信也 部谷京子 松家克 天坊昭彦 長澤忠徳 木村修三 富松保文 大坪圭輔 中島信也 高橋恭平 古河直純 宮崎晋 向山卓二	森敏生 白尾隆太郎	島崎信 向井周太郎 安部泰人 竹山実 田中栄作 田村善次郎 橋本梁司 網戸通夫 伊藤高弘 小池一子 真田日呂史 那須勝哉 最上壽之 藤枝見雄 朝倉重治 小石新八 小谷育弘 長谷川堯 及部克人 森江健二 千々岩英彰 横溝健志 馬杉宗夫 甲田洋二 酒井道夫 勝井三雄 篠原規行 富松保文
◎理事・学長 長澤忠徳	◎理事 木村修三 富松保文 大坪圭輔 中島信也 高橋恭平 古河直純 宮崎晋 向山卓二	◎美術館・図書館館長 赤塚祐二	◎講師 有福一昭
◎監事 小川昭夫 幸島祥夫	◎学長補佐 遠藤竜太 長沢秀之 浅見和之	<b>大学役職等</b> ◎学長 長澤忠徳	◎講師 有福一昭

◎ 学務事務組織 (2018年3月31日現在)

事務統轄：木村修三	国際チームリーダー(兼)：磯崎秀雄 入試チームリーダー(入試担当)：田村仁 入試チームリーダー(入試広報担当)：島山香里
[法人企画グループ] 法人企画グループ長：千羽一郎 法人企画チームリーダー：井上雅裕 社会連携チームリーダー(兼) 研究支援チームリーダー(兼)：千羽一郎 IRチームリーダー(兼) 広報チームリーダー(兼)：井上雅裕	[通信教育グループ] 通信教育グループ長：伊藤貴史 通信教育チームリーダー：江崎元
[総務グループ] 総務グループ長：増古憲一 総務チームリーダー(兼)：増古憲一 施設管財チームリーダー(施設管財担当)： 福本章 施設管財チームリーダー(設備担当)：橋本英明 施設管財チームリーダー(ネットワーク担当)： 村岡弘章 経理チームリーダー：佐藤真也	[美術館・図書館グループ] 美術館・図書館グループ長：上野敬子 美術館・図書館グループ長補佐 (造形研究センター・展覧会担当)：猪又正弥 美術チームリーダー：平出哲朗 図書チームリーダー：沢田雄一
[学生支援グループ] 学生支援グループ長：浅見和之 学生支援グループ長補佐 (学長室担当)：加藤徹 教務チームリーダー(学務担当)：磯崎秀雄 教務チームリーダー(教務担当)：高田立子 学生生活チームリーダー：毛利貴之 キャリアチームリーダー：澤野誠人	[監査チーム] 監査チームリーダー：野中剛
	[新学部・学科等設置申請事務室] 新学部・学科等設置申請事務室長(兼)： 井上雅裕
	[武蔵野美術学園事務室] 学園事務室長(兼)：伊藤貴史

学校法人武蔵野美術大学は、2014年3月26日に開催された理事会において、2014年度から2021年度までの第1次中長期計画を策定した。同中長期計画では、18歳人口が安定的に推移する2014年度から2017年度までの4年間を第一期、安定期を経て再び減少を始め減少速度が加速する2018年度から2021年度までの4年間を第二期と位置づけ、明確なミッション、ビジョンのもと、第一期の間にビジョン実現の基礎を確立することを目指している。2017年度は、8年にわたる第1次中長期計画の4年目、第一期最終年に当たり、事業計画に重点課題として設定した主要8項目について検討・実施を進めた。

## 1. 教育研究組織の改編等

P.37

- 武蔵野美術大学では2019年度より新学部として造形構想学部、新大学院として造形構想研究科を解説することを決定した。また、通信教育課程では2020年度に予定されている新課程に対応するため、2018年度より工芸工業デザイン学科の学生募集を段階的に停止することとした。
- 武蔵野美術学園は在校生に対する教育責任を果たしつつ、2017年度末に閉園とした。

## 2. 教育力の強化

P.37

- 3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)の一体的整備を実施、造形学部ディプロマ・ポリシーを策定した。
- 「武蔵野美術大学教育改革助成」制度によるカリキュラムや教材開発、教育方法や教育評価の工夫改善など、教育改革に資する取り組みを推進した。

## 3. 教育環境充実に向けたキャンパス整備

P.37

- 法人全体の今後の様々な教育・研究展開の可能性を展望しうる拠点として、JR市ヶ谷駅から徒歩3分の物件を取得し、2019年に市ヶ谷キャンパスとして開設すべく、改修工事の設計計画に着手した。
- 鷹の台キャンパスでは都市計画道路小平3・3・3号線の開通に伴い、立川バスを誘致し、バス転回場の整備を行った。また、9号館1階を多目的スペースとして整備した。

## 4. 美術館・図書館機能の充実

P.38

- 美術館・図書館の最重要課題として、各種館蔵コレクションのデジタル化とアーカイブ整理に精力的に取り組んだ。
- 造形研究センターでは平成25年度文科省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業において採択された第1・第2プロジェクトの最終年度にあたり、展覧会などを通してプロジェクトの成果を社会に発信した。

## 5. 学生支援の充実

P.39

- 学生の就職に対する意識を早期に喚起させ、積極的に就職活動に取り組むことができるように、各種ガイダンスを実施した。
- 「武蔵野美術大学兄弟姉妹入学免除要項」を定め、兄弟姉妹同時在籍者の経済的負担軽減制度を開始した。

## 6. 研究支援・社会連携推進、 美術教育の普及、美術文化の振興

P.39

- 科学研究費補助金の申請・採択件数の増加に対処すべく、科研費システムを導入し、事務作業の軽減化、明瞭化を図った。
- 産官学共同・委託研究の実施数の増加と質の向上を受けて、契約関連および知的財産の管理・活用の仕組みを進めた。
- 大学間連携について、電気通信大学と教育研究交流に関する包括協定、津田塾大学と包括連携協定を締結した。

## 7. 広報・IR活動の強化

P.40

- 募集広報における重点校を設定し、高校ガイダンスや地方の進学相談会等で訪問、出張授業の提案などを積極的に行った。
- IR推進会議のもと、グループ横断型プロジェクトとして「改革総合プロジェクト」「エンrollmentマネジメントプロジェクト」を設置し、検討・推進を行った。

## 8. 組織力・大学運営力の強化

P.40

- 労働関係諸法令の改正を機会に、人事諸制度の見直しを行うとともに、有期雇用職員に関する就業規則、育児休業及び介護休業に関する諸規則を改正した。
- 新学部・学科等の開設を目指し、新学部・学科等開設準備室及び新学部・学科等設置申請事務室を組織して、準備にあたった。

## 9. その他の主な取組

P.41

## 1. 教育研究組織の改編等

### 武蔵野美術大学

2019年度より新学部として造形構想学部、新大学院として造形構想研究科を開設することを決定した。造形構想学部には、従来の美術大学の枠にとらわれない新たな領域開拓を目指す学科として「クリエイティブイノベーション学科」を新設し、造形学部から映像学科を移設する。また、造形構想研究科には造形構想専攻を設置し、造形研究科から移設される映像・写真コースと新設されるクリエイティブリーダーシップコースを置く。

通信教育課程では2020年度に予定されている新課程に対応するため、2018年度より工芸工業デザイン学科の学生募集を段階的に停止することとした。なお、2019年度の教職課程再課程認定への対応のため、工芸工業デザイン学科の2018年度の教職課程認定申請を行わず、またデザイン情報学科では2019年度の教職課程再課程認定における教員免許状高等学校教諭一種免許状「情報」の申請を行わないこととしたほか、関連する規則の一部規則の改正を行った。

### 武蔵野美術学園

在校生に対する教育責任を果たしつつ、2017年度末に閉園とした。なお東京都の所管課に対しては武蔵野美術学園廃止手続きの申請を行っている。

## 2. 教育力の強化

- (1) 3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)の一体的整備を実施、造形学部ディプロマ・ポリシーを策定し、カリキュラムマップを用い授業科目との対応の可視化を図った。
- (2) 「武蔵野美術大学教育改革助成」制度によるカリキュラムや教材開発、教育方法や教育評価の工夫改善など、前年度からの継続2件に加えて新たに4件の教育改革に資する取り組みが採択され、推進された。
- (3) 正課授業として単位付与型のインターンシップを実施、海外インターンシップ(アメリカ、シアトル)に学生5名が参加、国内インターンシップに学生2名が参加した。

## 3. 教育環境充実に向けたキャンパス整備

### 都心キャンパス

法人全体の今後の様々な教育・研究展開の可能性を展望しうる拠点として、JR市ヶ谷駅から徒歩3分の物件を取得し、90周年にあたる2019年に市ヶ谷キャンパスとして開設すべく、改修工事の設計計画に着手した。開設時は、大学院造形構想研究科造形構想専攻クリエイティブリーダーシップコースの教室として利用を開始し、2021年には造形構想学部クリエイティブイノベーション学科の3年次生が学びの拠点とする。また、教室の他、「くらし」「まなび」「ものづくり」「共創」など、新学部・新研究科の教育研究の基本コンセプトに沿ったオープンスペースを設け、学生、教員、一般利用者や企業、自治体などが連携を持ちながら、新しい価値づくりの拠点となる場を目指す。



市ヶ谷キャンパス外観

### 鷹の台キャンパス

- (1) 小平市が実施する都市計画道路小平3・3・3号線の開通に伴い、従来の西武バスに加え立川バスを誘致し、バス転回場の整備を行った。路面及び外構の第1期工事が終了し、西武バス及び立川バスの共同バス停留所及び転回場として運用を開始した。今後は第2期工事としてシェルター(バス停留所の屋根)及び運転手の休憩所棟の設置を行う予定である。



バス転回場



9号館1階多目的スペース(完成イメージ)

- (2) 9号館1階を、学生のアメニティ、授業における展示等の多目的スペースとして整備した。また、什器等の設置を計画しており、作業に着手している。学生の意見を取り入れながら、常に進化する空間にする予定である。
- (3) 8号館1階西側に、共用ワークセンターを整備し、運用を開始した。工作機械の操作については講習プログラムを整備し、課外活動においても安全を確保すべく努めている。

### 三鷹ルーム

JR中央線・総武線「三鷹」駅北口より徒歩4分の場所に、法人や大学、各研究単位主催による発表や公開講座等での利用、通信教育課程における週末スクーリングの教室として「武蔵野美術大学三鷹ルーム」(通信教育課程三鷹教室)を開設した。



三鷹ルーム ラウンジ

## 4. 美術館・図書館機能の充実

- (1) 美術館、民俗資料室では以下のとおり展示会を開催し、延べ63,000人を超える入場者があった。また、展示関連のイベントの他、公開型ワークショップや多摩地区の小中学校他との連携プログラムを開催し、当館の活動を具体的に社会に発信することに努めた。

## 2017年度に美術館で開催した展示会

2017年4月4日(火)～4月29日(土・祝)  
『平成28年度 武蔵野美術大学 造形学部卒業制作・大学院修了制作優秀作品展』

2017年5月22日(月)～8月13日(日)  
『モダンリビングへの夢 ―産業工芸試験所の活動から』

2017年5月22日(月)～8月13日(日)  
『芦原義信建築アーカイブ展 ―モダニズムにかけた夢』

2017年9月4日(月)～10月1日(日)  
『未来の幽霊 ―長沢秀之展 ―』

2017年9月4日(月)～11月11日(土)  
『やきものの在処(ありか)』

2017年10月16日(月)～11月11日(土)  
『武蔵野美術大学のデザイン教育アーカイブ タイポグラフィ教育2  
タイポグラフィデザインの楽しさを探る/田中晋の教育の軌跡』

2017年10月16日(月)～11月11日(土)  
『戸谷成雄 ―現れる彫刻』

2017年11月27日(月)～12月22日(金)  
『遠藤彰子展 “Cosmic Soul”』

2017年11月27日(月)～12月22日(金)  
『吉田直哉 映像とは何だろうか ―テレビ番組開拓者の思索と実践』

2017年11月27日(月)～12月22日(金)  
『ムサビ助手展2017 ―武蔵野美術大学助手研究発表 ―』

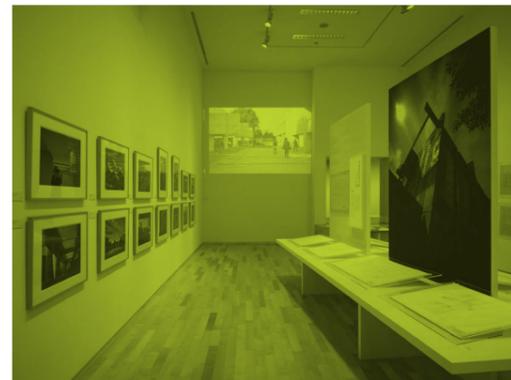
## 2017年度に民俗資料室で開催した展示会

2017年5月22日(月)～7月1日(土)  
『民俗資料室ギャラリー展示(24) だるまで巡るニッポン  
―日本全国だるまのかたち―』

2017年10月16日(月)～11月18日(土)  
『民俗資料室ギャラリー展示(25) しめかざり ―祈りと形―』

- (2) 図書館は年間約140,000人、イメージライブラリーは約36,000人が利用した。とりわけイメージライブラリーでは、利用者へSNSを介して新収蔵資料情報等を積極的に送信したことが功を奏し、前年度に比べ来館者数と資料利用数が大幅に増加した。
- (3) 図書館には国内外から年間約10,000人の見学者が来館した。
- (4) 津田塾大学との人事交流の一環で、図書館職員1名を津田塾大学図書館へ派遣した。
- (5) 美術館、図書館、民俗資料室、イメージライブラリー各所蔵品の授業活用、及び「研究・授業特別閲覧室」「研究用映像視聴室」等の館内各施設の授業利用が増加した。

- (6) 各種館蔵コレクションのデジタル化とアーカイブ整備に関しては、当館の最重要課題として各部門で精力的に取り組んでいる。大辻清司コレクションについてはプリント作品群の目録刊行に続き、フィルム作品群による「大辻清司アーカイブフィルムコレクション」のシリーズ刊行を始めた。「中村とうようコレクション」については一部のデジタル化したレコード音源を含めて学内利用できるデータベース構築を進めている。
- (7) 造形研究センターについては、平成25年度文科省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業において採択された第1プロジェクト「近現代建築資料のデジタル・アーカイブ化と、その利活用の手法研究」及び第2プロジェクト「生活デザインのデジタル・アーカイブ化と、その生活文化空間の総合的研究への応用」の最終年度にあたり、成果発表としての展示会を開催し、同時にスマートフォン用アプリケーションによりデジタル化の成果を社会に発信した。また、同事業において平成26年度に採択された第3研究プロジェクト「日本近世における文字印刷文化の総合的研究」では、近世の印刷物に対してビックデータ解析システムや現代の職人技術を駆使し、既存の研究手法とは異なるアプローチで研究活動を展開している。



美術館・図書館で開催された展示会『芦原義信建築アーカイブ展 ―モダニズムにかけた夢』  
撮影：有川幸雄

- (8) 平成27年度より3年間、文化庁から受託した「アーカイブ中核拠点形成モデル事業」は最終年度を迎え、プロダクト・デザイン資料の拠点として、国内のデザイン資料所蔵機関と連携しアーカイブ手法の検討、データベースの管理・運用・利活用の調査研究、ネットワークの構築を推進し、3年間の成果としてシンポジウムの開催、事業サイトの開設を行った。



アーカイブ中核拠点形成モデル事業サイト

## 5. 学生支援の充実・強化

- (1) 学生の就職に対する意識を早期に喚起させ、積極的に就職活動に取り組むことができるように、3年生の前期より就職ガイダンスをスタートさせ、ポートフォリオ作成指導プログラムやインターンシップガイダンスをはじめとした各種ガイダンス(総合職講座、作家支援プログラム、Uターン・Iターン講座、就活なんでも相談会、OBOGトーク)を実施した。



内定者がポートフォリオ活用法を解説する発表会(左)、ポートフォリオの展示会(右)

- (2) 年間100社を超える個別会社説明会のほか、合同企業説明会を複数回開催した。合同企業説明会には企業257社、学生1,123名が参加した。
- (3) 会社説明会解禁前に「就活スタート準備講座」を実施し、早めの動機づけを行った。
- (4) 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(障害者差別解消法)への対応を継続し、支援決定後の学生のフォロー等支援体制を強化した。また、より多様な学生支援を推進するため、キャンパスソーシャルワーカーの導入を検討した。

- (5) 武蔵野美術大学ワークスタディ実施要領を施行し、ワークスタディ制度を開始した。
- (6) 在学生保護者を対象とした「2017年度在学生保護者向け教育懇談会」を6月に開催し、500名の参加があった。



教育懇談会の様子

- (7) 「武蔵野美術大学兄弟姉妹入学金免除要領」を定め、2018年度新入生より適用、兄弟姉妹同時在籍者の経済的負担軽減制度を開始した(13ページ参照)。
- (8) 第2学生寮設置について検討を行った。

## 6. 研究支援・社会連携推進、美術教育の普及、美術文化の振興

## 1 研究支援の推進

- (1) 科学研究費補助金について、2017年度は新規採択5件・継続12件の合計17件となった(23ページ参照)。また、増加傾向にある採択件数に対処すべく、科研費システムを導入し、事務作業の軽減化、明瞭化を図った。更なる科研費申請・採択に向けて、新規申請者の発掘、スタッフの研修参加、間接経費の活用、研究者へのコンプライアンス教育の徹底等を行った。
- (2) 産官学共同・委託研究を17件実施した(24ページ参照)。そのうち市区町村からの依頼が6件、企業からの依頼は11件であった。昨年度に引き続き、研究の実施数の増加と質の向上に向けて、契約関連および知的財産の管理・活用の仕組みを進めた。また、取組をより奨励するために、教員へのインセンティブ(奨励費)支給の内規を制定した。
- (3) 大学間連携について、電気通信大学とは教育研究交流に関する包括協定、津田塾大学とは包括連携協定を締結した。津田塾大学とは当該年度中に合同授業や職員の相互研修を行い、理解を深めた。



2017年4月7日、電気通信大学との包括協定調印式



2017年9月15日、津田塾大学との包括連携協定調印式

## 2 社会連携の推進、美術教育の普及、美術文化の振興

- 8月に「MIDTOWN ♥ SUMMER 2017」、「東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズウィーク 2017」に参加し、本学企画として4つのワークショップを実施した。
- 東京ミッドタウン・デザインハブ第70回企画展「ハブとマンガース」を11月に開催した。
- 千代田区東神田のgallery αMにおいて、αMプロジェクト2017「鏡と穴—彫刻と写真の界面」を年間7回の企画展として開催した。
- 本学独自の活動として全国各地の学校や美術館で展開する「旅するムサビプロジェクト」や、小・中学生を対象とするワークショップ等に取り組んだ。「旅するムサビプロジェクト」は、「教育・推進・支援手法」の分類で2017年度グッドデザイン賞を受賞した(26ページ参照)。
- 本学社会連携活動の学内外周知のため、「ワークショップ発表会2017:美大生と地域」を開催した。
- 本学の加盟する全国芸術系大学コンソーシアムが文化庁から受託した、平成29年度文化芸術アソシエイツ人材育成プログラムとして「おおむら・あまみ国際学生映画祭」を開催した。
- 鷹の台キャンパスにて親子向けのものづくりワークショップを開催した。



gallery αM企画展「鏡と穴 彫刻と写真の界面 vol.7 野村在」 撮影：木奥恵三



公開講座「ものづくりワークショップ 練り込み技法で作るデザートボール」の様子

- 三鷹ルームにて関野吉晴教授による公開講座(全4回)、志田陽子教授による公開講座(全2回)を開催した。
- デザイン・ラウンジにて濱口秀司氏、山口周氏による公開講座「creative innovation」を開催した(26ページ参照)。
- ちょうふ市内・近隣大学等公開講座に川口起美雄教授、棚橋早苗講師が「美大は日常が想像以上！」として講座を開講した。
- 小学校・中学校(美術)・高等学校(美術、工芸)のうち、いずれかの免許状を有する現職教員などを対象とした免許状更新講習を実施した。
- 新たな試みとして、近隣の中学生2名を「職場体験」として受入れた。

## 7. 広報・IR活動の強化

- 募集広報における重点校については、これまでの本学受験実績に基づき第一層として60校を設定し、高校ガイダンスや地方の進学相談会等で訪問、出張授業の提案などを積極的に行ってきた。いくつかの高校とは継続的な交流も確立できている。
- 新学科設置構想のために必要な需要アンケートをする対象の高校を360件選出し、その結果、本学の受験傾向や、総合的な学カレベルの高さがより明確になった。
- 広報戦略会議のもと、「武蔵野美術大学広報ポリシー」を策定した。
- IR推進会議のもと、グループ横断型プロジェクトとして「改革総合プロジェクト」「エンrollmentマネジメントプロジェクト」を設置し、それぞれ検討・推進を行った。
- IR活動の一環として、学校法人の概要、事業の概要、財務の概要とともに本学の教育・研究、国際交流、社会貢献等の取り組みや施策の現状をわかりやすくまとめた冊子『MUSASHINO ART UNIVERSITY FACTBOOK』を刊行した。



8月のオープンキャンパスで受験生向けに実施した学科紹介ガイダンス

## 8. 組織力の強化

- 労働関係諸法令の改正を機会に、人事諸制度の見直しを行うとともに、有期雇用職員に関する就業規則を改正した。また、育児休業及び介護休業に関する諸規則を一から再整備し、改正した。
- 2019年の新学部・学科等の開設を目指し、新学部・学科等開設準備室及び新学部・学科等設置申請事務室を組織して、準備にあたった。また検討課題別にグループ横断型の検討部会を設定した。

## 9. その他の主な取組

### 1 教育研究関連の取組

- 「個人研究費規則」の一部改正により、従来の「教育研究活動業績書 A・B」を「教育研究活動業績報告書」に変更し、加えて主任教授による総評提出を規則化することで、教育・研究活動の改善に寄与する仕組みを構築した。
- 「武蔵野美術大学共同研究助成」制度による学内並びに国内外の大学等と共同して行う研究について、前々年度からの継続2件、前年度からの継続5件に加えて新たに3件の取り組みが採択され、推進された。
- 前期研究会「美術・デザイン領域におけるメディアを利用した教育法の研究」(清水恒平准教授、白尾隆太郎教授)、後期研究会「新しい大学院のカリキュラム〈府中市美術館/大学院彫刻コース/大学院芸術文化政策コースの連携〉」(伊藤誠教授、高島直之教授、米徳信一教授、是枝開教授)を実施し、共同研究助成及び教育改革助成の研究成果が公表された。
- 「美大生のメンタルヘルス—多様化する学生の抱える問題にどう対応するか」をテーマに、外部講師を招いた全学研修会を計画したが、台風により中止となったため、後日、内部のみで研修会を行い、外部講師によるレジュメを含めた記録を作成して学内に配布した。
- 聴覚障害を持つ学生に対するノートテイク支援を行った。
- 国内外のアーティストやデザイナー、研究者等を招き、課外講座を計56回実施した。(実施した講座名及び講師の一覧については27ページ参照)
- 学生教育研究災害傷害保険(学研災)及び学生教育研究賠償責任保険(学研賠)への加入義務付けに加え、正課外の事故に対してより広範囲な補償が得られるよう、次年度新入生へ向け別途任意保険への加入を促した。
- 通信教育課程の学生に対する進路・就職支援として、通信教育グループとの連携により、キャリアセンターが実施する一部のプログラムについて参加対象とした。また、夏期スクーリング期間中にキャリアセンタースタッフによる面談および就職ガイダンスを実施した。

### 2 国際化の推進

- ロシア国内で最も歴史が古く、有名な芸術教育施設の一つである国立美術大学「イリヤ・レーピン名称サンクトペテルブルク国立絵画・彫刻・建築アカデミー(St. Petersburg State Academic Repin Institute of Painting, Sculpture and Architecture)」と2017年11月にロシアの大学とは初となる国際交流協定を締結した。2018年は日露関係において「日本におけるロシア年」「ロシアにおける日本年」とされ、その文化交流活動のひとつ製薬会社「タケダ」ロシア法人による「タケダ ART / HELP」プロジェクトにおいて、サンクトペテルブルク(2018年2月)とモスクワ(2018年3月)にて開催された「日露の若者による美術展覧会」に、本学は43点の作品参加を行った。そのサンクトペテルブルクでの開催においては日露青年交流センターによる日露青年派遣・招聘事業として2月に学生6名、教員1名をサンクトペテルブルクへ派遣し、同大学との教育交流プログラムを実施した。また3月には教員3名を派遣し、次年度において同大学の教員・学生を招聘し本学にて教育交流プログラムを実施する提案を行った。
- 「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援(旧グローバル人材育成推進事業)」にかかる取組について、取組状況や成果、目標の達成状況及び補助期間終了後の展開等について事後評価を受けた(総括評価:B 取組状況、目標の達成状況が事業計画をやや下回っているが、事業目的はある程度実現された)。評価結果については大学webサイトにて公表した。

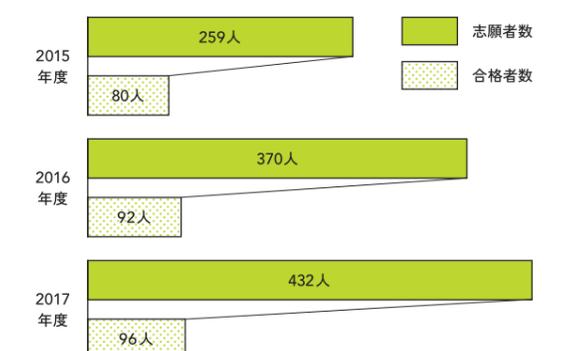


長澤忠徳学長、赤塚祐二教授が出席した交流協定書調印式(左)  
サンクトペテルブルクで実施された教育交流プログラムの様子(右)

### 3 入学試験関連の取組

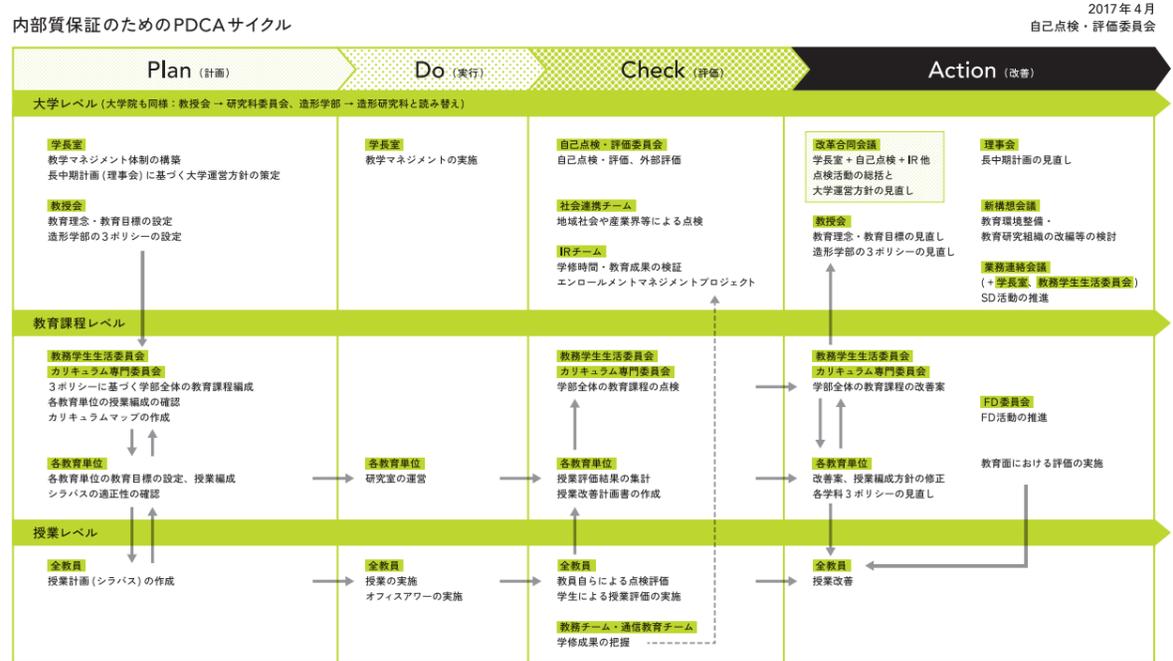
- 一般入学試験において、「一般方式」前年度比0.2%減、「センターA方式」前年度比0.5%減、「センターB方式」前年度比25%減となり、全体の志願者数は6,830名と昨年の6,600名と比較し、230名、3.4%の減少となった(入試結果の詳細は10ページ参照)。
- 公募制推薦入学試験(後期)で、新たに映像学科の「数学力重視型」を導入した。受験者数は1名と定員を満たすことができなかったが、今後の傾向を注視することとしたい。
- 昨年度導入した研究生制度について、学部研究生は7名から13名の増、大学院研究生は4名から3名の減、外国人研究生は26名から30名の増となり、全体の志願者数は77名と、昨年の37名と比較し40名、108%の増加となり、特に工芸工業デザイン研究領域、映像研究領域の志願者の増加が目立った。
- 外国人留学生特別入試において、出願資格として「EJU50%以上の得点を取得している者」、又は「JLPT(日本語能力試験)にN2以上のレベルに合格している者」を設けた。志願者数は432名と、昨年の370名と比較し16.8%の増加となった。
- 外国人留学生特別入試、大学院修士課程及び研究生入試においては、昨年度に続き外国人の希望者が増え、特に中国からの希望者が増加したことで、大きく志願者を伸ばす結果となった。

### 過去3年間の外国人留学生特別入学試験結果



4 自己点検・評価の取組

第6期自己点検・評価委員会において「内部質保証」をテーマに、学修成果の検証、教員組織の適切性等について議論を行い、「内部質保証のためのPDCAフロー」については大学webサイトに公開した。また、昨年度末に引き続き「改革合同会議」を開催し、本年度の様々な点検・評価項目と改善経過を総括し、次年度の活動方針を確認した。



5 通信教育課程の取組

- (1) 通信教育課程webサイトをリニューアルし、昨年度実施したレスポンス化と合わせてアクセス数が大幅に向上した。



リニューアルされた通信教育課程webサイト

- (2) メディア授業科目として新たに造形文化科目に「レポート入門」および「カメラリテラシー」を設け、2018年4月より開講することとした。  
 (3) 体験授業を組み合わせた入学相談会を昨年度と同様に実施し多数の参加者を得た。

6 武蔵野美術学園の取組

- (1) 学生募集について、週2日制を含む在籍者は2017年度5月現在277名となり学園閉園による駆け込み入学の影響により前年度より40名の増加となった。  
 (2) 2017年度についても昨年度と同程度数のオープンセミナーを開講した。  
 (3) 7年目となるThe SIZE SIX展を開催し、出品料とオークション売上を、武蔵野市を通じて東日本大震災義援金として寄付した。  
 (4) 9月にオープンキャンパス及び学園祭を同時開催した。  
 (5) 「井の頭100祭」に協力し、同祭に武蔵野美術学園学生ブースを設置、アート作品販売等により市民との交流を行った。

FINANCIAL SUMMARY

財務の概要

1. 経年比較

平成26年度以前の決算額は、平成27年度改正後の学校法人会計基準の様式に基づき、区分及び科目を組み替えて表示している。

(1) 貸借対照表

(単位：千円)

科目	平成25年度末	平成26年度末	平成27年度末	平成28年度末	本年度末
固定資産	42,960,822	44,718,223	44,882,267	44,870,269	44,604,647
流動資産	6,903,735	5,545,828	5,941,974	6,142,162	6,722,290
資産の部合計	49,864,557	50,264,051	50,824,241	51,012,430	51,326,938
固定負債	1,703,255	1,790,149	1,865,177	1,934,811	2,074,043
流動負債	3,807,542	3,710,653	4,270,840	2,746,215	2,632,484
負債の部合計	5,510,796	5,500,803	6,136,017	4,681,026	4,706,527
基本金	42,944,389	44,953,920	47,791,473	48,417,380	48,536,210
繰越収支差額	1,409,372	△ 190,672	△ 3,103,249	△ 2,085,975	△ 1,915,800
純資産の部合計	44,353,761	44,763,248	44,688,224	46,331,404	46,620,411
負債及び純資産の部合計	49,864,557	50,264,051	50,824,241	51,012,430	51,326,938

収支計算書

(1) 資金収支計算書

(単位：千円)

科目	平成25年度末	平成26年度末	平成27年度末	平成28年度末	本年度末	
収入の部	学生生徒等納付金収入	8,165,171	8,135,840	8,149,357	8,145,023	8,202,496
	手数料収入	195,443	206,116	208,420	213,338	218,500
	寄付金収入	50,538	60,102	56,742	35,520	32,434
	補助金収入	932,250	789,641	835,490	906,075	686,547
	資産売却収入	0	0	0	0	0
	付随事業・収益事業収入	77,127	88,545	112,972	128,804	104,377
	受取利息・配当金収入	60,002	106,083	49,334	11,760	9,033
	雑収入	182,397	89,321	101,621	1,658,925	275,332
	借入金等収入	0	0	0	0	0
	前受金収入	1,969,067	1,939,761	1,990,529	2,046,593	1,954,014
	その他の収入	384,488	357,558	3,183,865	380,116	485,683
	資金収入調整勘定	△ 2,202,321	△ 2,060,993	△ 2,023,393	△ 3,366,513	△ 2,266,417
	前年度繰越支払資金	7,741,087	6,317,261	5,093,555	5,546,227	5,721,121
	収入の部合計	17,555,249	16,029,234	17,758,492	15,705,868	15,423,119
支出の部	人件費支出	4,657,096	4,604,853	4,566,612	4,588,248	4,634,938
	教育研究経費支出	2,533,822	2,492,314	2,912,212	2,532,089	2,457,283
	管理経費支出	788,619	780,628	758,699	910,995	731,183
	借入金等利息支出	0	0	0	0	0
	借入金等返済支出	0	0	0	0	0
	施設関係支出	1,457,131	2,165,359	3,898,239	509,534	204,159
	設備関係支出	288,210	263,827	447,975	263,575	303,820
	資産運用支出	1,127,344	544,007	179,190	748,114	822,949
	その他の支出	987,295	645,123	538,470	1,061,540	633,497
	資金支出調整勘定	△ 601,529	△ 560,432	△ 1,089,132	△ 629,348	△ 671,205
	翌年度繰越支払資金	6,317,261	5,093,555	5,546,227	5,721,121	6,306,497
	支出の部合計	17,555,249	16,029,234	17,758,492	15,705,868	15,423,119

(2) 事業活動収支計算書

(単位：千円)

科目	平成25年度末	平成26年度末	平成27年度末	平成28年度末	本年度末		
教育活動 収支	事業活動 収入の部	学生生徒等納付金	8,165,171	8,135,840	8,149,357	8,145,023	8,202,496
		手数料	195,443	206,116	208,420	213,338	218,500
		寄付金	50,538	60,102	56,742	36,674	32,811
		経常費等補助金	834,441	771,302	773,406	852,044	686,547
		付随事業収入	77,127	88,545	112,972	128,804	104,377
		雑収入	182,397	89,321	101,167	1,657,122	274,400
		教育活動収入計	9,505,118	9,351,226	9,402,064	11,033,004	9,519,131
	事業活動 支出の部	人件費	4,644,366	4,588,832	4,551,219	4,579,627	4,614,022
		教育研究経費	3,525,324	3,506,341	3,881,707	3,748,219	3,665,986
		管理経費	899,227	897,763	875,880	1,060,254	889,857
		徴収不能額等	0	0	0	0	0
		教育活動支出計	9,068,917	8,992,936	9,308,806	9,388,099	9,169,865
		教育活動収支差額	436,201	358,289	93,257	1,644,905	349,266
	教育活動外 収支	事業活動 収入の部	受取利息・配当金	60,002	106,083	49,334	11,760
その他の教育活動外収入			0	0	0	0	0
教育活動外収入計			60,002	106,083	49,334	11,760	9,033
事業活動 支出の部		借入金等利息	0	0	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0	0	0
教育活動外収支差額	60,002	106,083	49,334	11,760	9,033		
経常収支差額	496,203	464,373	142,591	1,656,665	358,299		
特別収支	事業活動 収入の部	資産売却差額	0	0	0	0	0
		その他の特別収入	110,126	40,517	99,618	82,433	17,812
		特別収入計	110,126	40,517	99,618	82,433	17,812
	事業活動 支出の部	資産処分差額	37,342	14,402	235,939	14,160	5,326
		その他の特別支出	81,241	81,000	81,294	81,758	81,778
		特別支出計	118,583	95,402	317,233	95,918	87,104
特別収支差額	△ 8,457	△ 54,885	△ 217,615	△ 13,485	△ 69,293		
基本金組入前当年度収支差額	487,746	409,487	△ 75,024	1,643,181	289,006		
基本金組入額合計	△ 1,467,696	△ 2,009,758	△ 3,096,617	△ 644,907	△ 118,830		
当年度収支差額	△ 979,950	△ 1,600,271	△ 3,171,641	998,274	170,176		
前年度繰越収支差額	2,389,322	1,409,372	△ 190,672	△ 3,103,249	△ 2,085,975		
基本金取崩額	0	227	259,063	19,000	0		
翌年度繰越収支差額	1,409,372	△ 190,672	△ 3,103,249	△ 2,085,975	△ 1,915,800		

(参考)

事業活動収入計	9,675,246	9,497,826	9,551,015	11,127,197	9,545,976
事業活動支出計	9,187,500	9,088,338	9,626,039	9,484,017	9,256,969

2. 主な財務比率比較

事業活動収支計算書及び貸借対照表から、大学の過去5年間の財務比率を計算し下表に示した。なお、平成26年度以前の比率は、平成27年度改正後の学校法人会計基準の様式に基づき、区分及び科目を組み替えた金額で算出している。また、「評価」欄は日本私立学校振興・共済事業団による評価を、「芸術系学部平均」欄は芸術系19法人の平成28年度の平均値を表したものである。ただし、新会計基準への組み替えにおいて、\* 経常収入は帰属収入、\* 経常支出は消費支出で算出している。(いずれも日本私立学校振興・共済事業団編『今日の私学財政』平成29年度版による。)

(1) 事業活動収支計算書関係財務比率

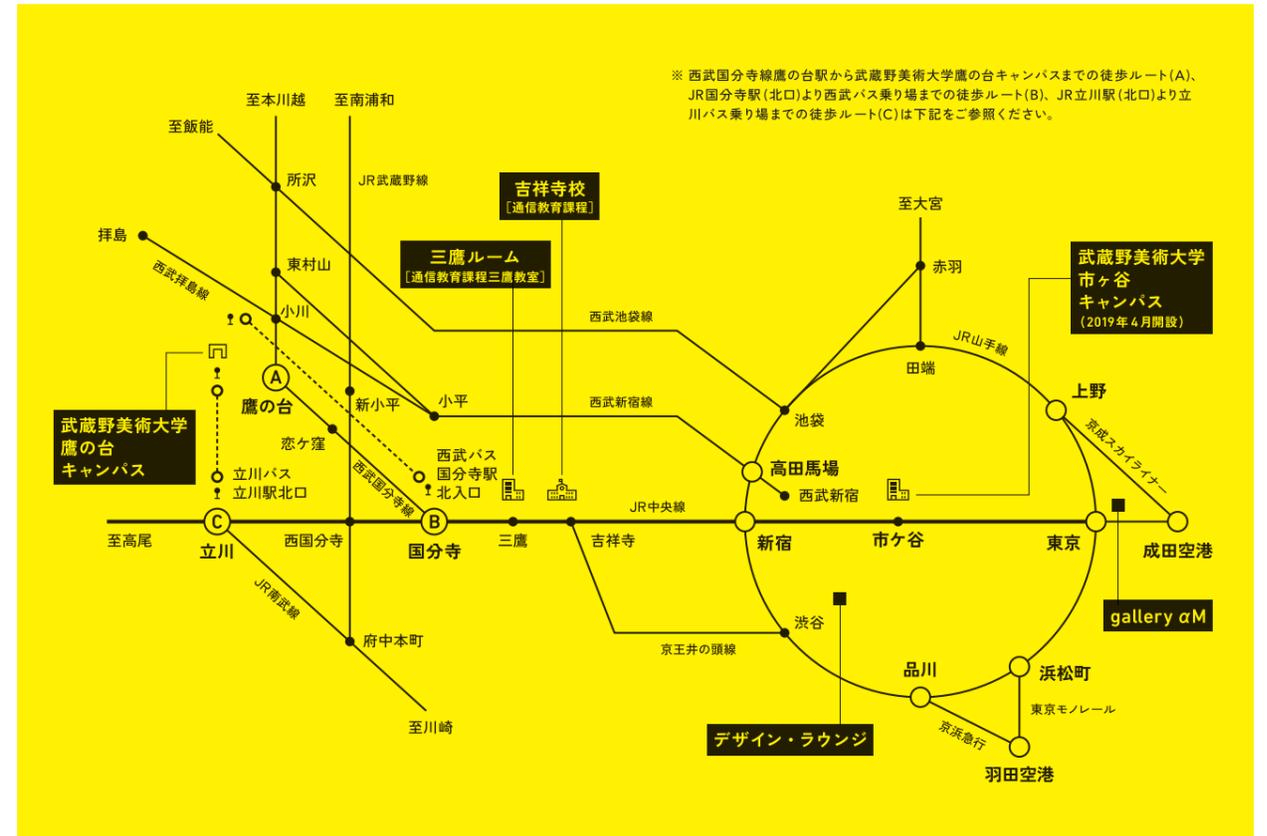
比率	算式(×100)	評価	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	本年度末	芸術系学部平均
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入計}}$	△	5.0%	4.3%	△ 0.8%	14.8%	3.0%	1.8%
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{事業活動収入計}}$	～	85.4%	86.0%	86.2%	73.7%	86.1%	76.9%
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入計}}$	△	0.6%	0.9%	1.0%	0.3%	0.5%	0.6%
経常寄付金比率	$\frac{\text{教育活動収支の寄付金}}{\text{事業活動収入計}}$	△	0.5%	0.6%	0.6%	0.3%	0.3%	0.4%
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入計}}$	△	9.6%	8.3%	8.7%	8.1%	7.2%	11.3%
経常補助金比率	$\frac{\text{教育活動収支の補助金}}{\text{事業活動収入計}}$	△	8.7%	8.2%	8.2%	7.7%	7.2%	10.1%
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{事業活動収入計}}$	▼	48.6%	48.5%	48.2%	41.5%	48.4%	55.8%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{事業活動収入計}}$	△	36.9%	37.1%	41.1%	33.9%	38.5%	32.8%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{事業活動収入計}}$	▼	9.4%	9.5%	9.3%	9.6%	9.3%	11.5%
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{事業活動収入計}}$	▼	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入計}}$	△	15.2%	21.2%	32.4%	5.8%	1.2%	10.2%
減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{事業活動収入計}}$	～	11.6%	12.0%	11.2%	14.3%	15.0%	13.0%
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	▼	56.9%	56.4%	55.8%	56.2%	56.3%	72.6%
基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入 - 基本金組入額}}$	▼	111.9%	121.4%	76.1%	90.5%	98.2%	109.4%
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	△	5.2%	4.9%	1.5%	15.0%	3.8%	△ 0.4%
教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	△	4.6%	3.8%	1.0%	14.9%	3.7%	△ 4.2%

(2) 貸借対照表関係財務比率

比率	算式(×100)	評価	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	本年度末	芸術系学部平均
純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{負債 + 純資産}}$	△	88.9%	89.1%	87.9%	90.8%	90.8%	89.4%
繰越収支差額構成比率	$\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{負債 + 純資産}}$	△	2.8%	△ 0.4%	△ 6.1%	△ 4.1%	△ 3.7%	△ 9.1%
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	▼	96.9%	99.9%	100.4%	96.8%	95.7%	96.6%
固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産 + 固定負債}}$	▼	93.3%	96.1%	96.4%	93.0%	91.6%	90.6%
固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	▼	86.2%	89.0%	88.3%	88.0%	86.9%	86.4%
有形固定資産構成比率	$\frac{\text{有形固定資産}}{\text{総資産}}$	▼	53.4%	55.6%	61.0%	59.7%	57.7%	58.0%
特定資産構成比率	$\frac{\text{特定資産}}{\text{総資産}}$	△	20.4%	21.1%	21.1%	28.0%	29.0%	18.5%
流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	△	13.8%	11.0%	11.7%	12.0%	13.1%	13.6%
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	△	181.3%	149.5%	139.1%	223.7%	255.4%	246.3%
退職給与引当特定資産保有率	$\frac{\text{退職給与引当特定資産}}{\text{退職給与引当金}}$	△	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	73.0%
固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{負債 + 純資産}}$	▼	3.4%	3.6%	3.7%	3.8%	4.0%	5.9%
流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{負債 + 純資産}}$	▼	7.6%	7.4%	8.4%	5.4%	5.1%	4.7%
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	▼	11.1%	10.9%	12.1%	9.2%	9.2%	10.6%
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	▼	12.4%	12.3%	13.7%	10.1%	10.1%	11.9%
積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	△	130.2%	119.9%	105.8%	103.9%	104.0%	89.3%

〔評価〕 △高い値が良い ▼低い値が良い ～どちらともいえない  
 運用資産 = 現金預金 + 特定資産 + 有価証券  
 要積立額 = 減価償却累計額 + 退職給与引当金 + 2号基本金 + 3号基本金

路線図



最寄り駅からのアクセス(鷹の台キャンパス)



A

西武国分寺線「鷹の台」駅下車 徒歩18分  
 ◎JR中央線から「国分寺」駅乗換、  
 「東村山」行(2駅目)  
 ◎西武新宿線から「東村山」駅乗換、  
 「国分寺」行(2駅目)

B

西武バス「武蔵野美術大学正門」停留所下車すぐ  
 ◎JR中央線「国分寺」駅北口徒歩3分/  
 「国分寺駅北口」停留所より「武蔵野美術大学」行、  
 または「小平営業所」行に乗り(バス所要時間:約20分)

C

立川バス「武蔵野美術大学」停留所下車すぐ  
 ◎JR中央線「立川」駅北口下車  
 「立川駅北口」(5番乗り場)より「武蔵野美術大学」行  
 に乗り(バス所要時間:約25分)

学校法人武蔵野美術大学 2017年度ファクトブック

発行 学校法人武蔵野美術大学  
〒187-8505 東京都小平市小川町 1-736

発行日 2018年6月1日

企画・編集 武蔵野美術大学法人企画グループIRチーム  
TEL: 042-342-6038

制作

アートディレクション 平林奈緒美

デザイン 星野久美子

編集・ライティング 成田敏史

印刷 Butter Inc.

大学全体の活動や最新の情報については、大学webサイトをご参照ください。  
<http://www.musabi.ac.jp>

本冊子の図版および文章の無断転載を禁ずる。

Copyright © 2018 Musashino Art University

All Rights Reserved.

(2017)

MAU FACTBOOK

MUSASHINO ART UNIVERSITY

Since the earliest days of Musashino Art University, our mission has been to train professionals equipped with a good general education and of superlative character for careers in various fields of the formative arts, focusing primarily on the realms of fine arts and design. To achieve this, the University is deeply mindful of the need to arm students with a combination of generalist and specialist skills, and remain faithful to our founding spirit of providing art education that allows students to function with true freedom as human beings, and producing artists of well-rounded erudition.

---

No part of this book may be reproduced in any manner or transmitted by any means whatsoever, electronic or mechanical (including photocopy, recording, internet posting, or any other information storage and retrieval system) without the prior written permission of the publisher.

June 2018 Printed in Tokyo, Japan

<http://www.musabi.ac.jp>

W 210mm H 297mm format / 48 pages